

東日本大震災に伴う教職員の健康調査（第4回）の結果について

～ 概要版 ～

1 目的

東日本大震災に伴う教職員のメンタルヘルスケア対策の一環として、1回目（平成23年12月実施）、2回目（平成25年6月実施）、3回目（平成27年6月実施）の調査に引き続き4回目の健康調査を実施し、教職員が自らの健康状態を把握し、セルフケアに努めるように啓発する。また、教職員の心身の不調を発見し、早期治療を促すことにより、教職員の健康保持に努める。

2 調査の実施

- (1) 対象者 全教職員
- (2) 調査期間 平成29年6月16日（金）から6月23日（金）まで
- (3) 実施方法

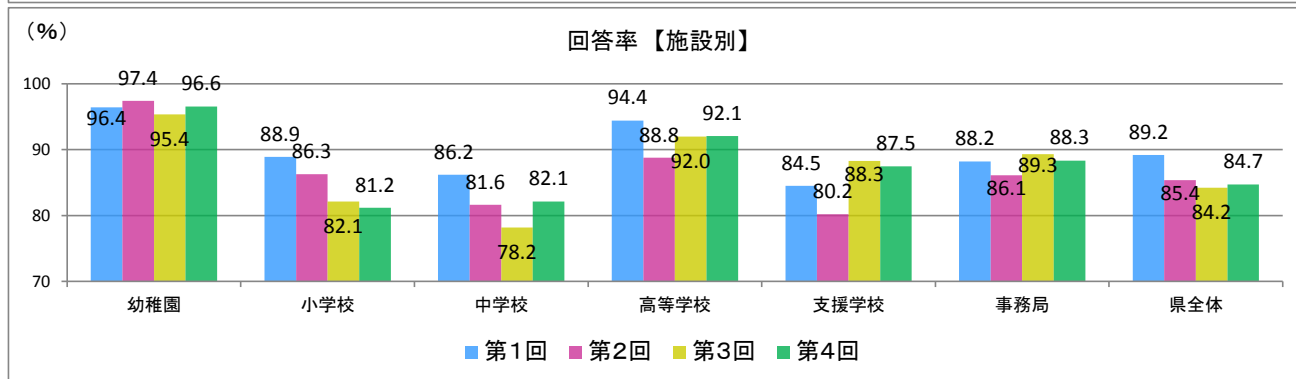
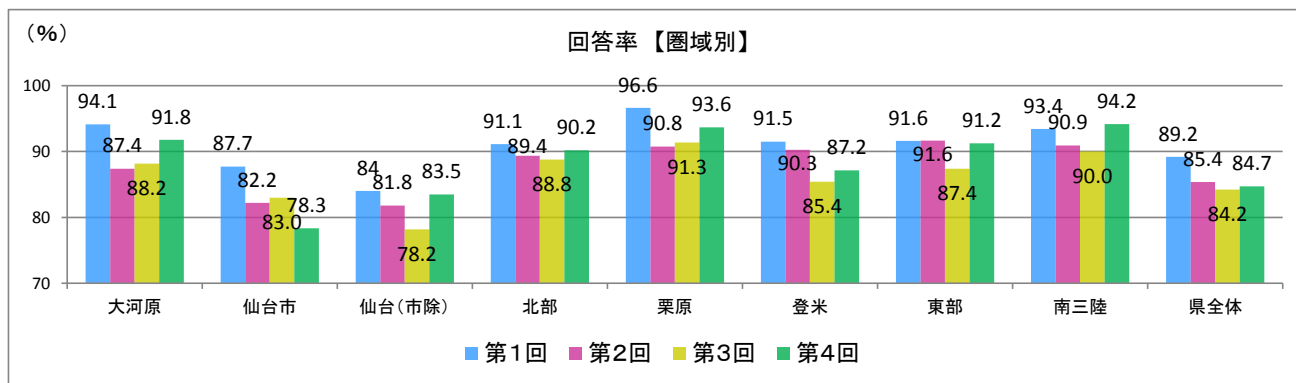
教職員は、「健康調査票」により各自セルフチェックを行い、調査票を厳封の上、所属長に提出した。各所属長は、教職員から提出があった健康調査票をとりまとめ、公立学校共済組合宮城支部へ送付した。

なお、「健康調査票」中の精神健康全般に関するチェック及び仕事に関するチェックの結果を、後日、公立学校共済組合宮城支部から回答者全員に親展文書で発送し、自身による健康管理を促した。

3 調査結果

■ 回答率 84.7%

全教職員（公立学校共済組合宮城支部に所属する全組合員）18,764人中、15,898人の教職員から回答があり、第3回調査（84.2%）の回答率を若干上回った。圏域別では、大河原（88.2%→91.8%）仙台（市除）（78.2%→83.5%）、東部（87.4%→91.2%）、南三陸（90.0%→94.2%）が前回より大きく上回ったが、仙台市（83.0%→78.3%）は前回より大きく下回った。施設別では、中学校（78.2%→82.1%）が前回より大きく上回った。



注：仙台（市除）とは、仙台圏域から仙台市を除いたものである。以下、同じ。

参 考

【圏域別】

	大河原	仙台市	仙台(市除)	北部	栗原	登米	東部	南三陸	県全体
対象者	1,798	7,028	3,987	1,922	614	825	1,769	821	18,764
回収者	1,650	5,505	3,329	1,733	575	719	1,614	773	15,898
第4回(今回)	91.8%	78.3%	83.5%	90.2%	93.6%	87.2%	91.2%	94.2%	84.7%
第3回	88.2%	83.0%	78.2%	88.8%	91.3%	85.4%	87.4%	90.0%	84.2%
第2回	87.4%	82.2%	81.8%	89.4%	90.8%	90.3%	91.6%	90.9%	85.4%
第1回	94.1%	87.7%	84.0%	91.1%	96.6%	91.5%	91.6%	93.4%	89.2%

【施設別】

	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	支援学校	事務局	県全体
対象者	145	7,550	4,630	4,069	1,522	848	18,764
回収者	140	6,129	3,803	3,746	1,331	749	15,898
第4回(今回)	96.6%	81.2%	82.1%	92.1%	87.5%	88.3%	84.7%
第3回	95.4%	82.1%	78.2%	92.0%	88.3%	89.3%	84.2%
第2回	97.4%	86.3%	81.6%	88.8%	80.2%	86.1%	85.4%
第1回	96.4%	88.9%	86.2%	94.4%	84.5%	88.2%	89.2%

【回答者/年代別】

(単位:人,%)

10代・20代	2,232	14.0
30代	2,663	16.8
40代	4,290	27.0
50代	5,867	36.9
60代	507	3.2
不明	339	2.1
合計	15,898	100.0

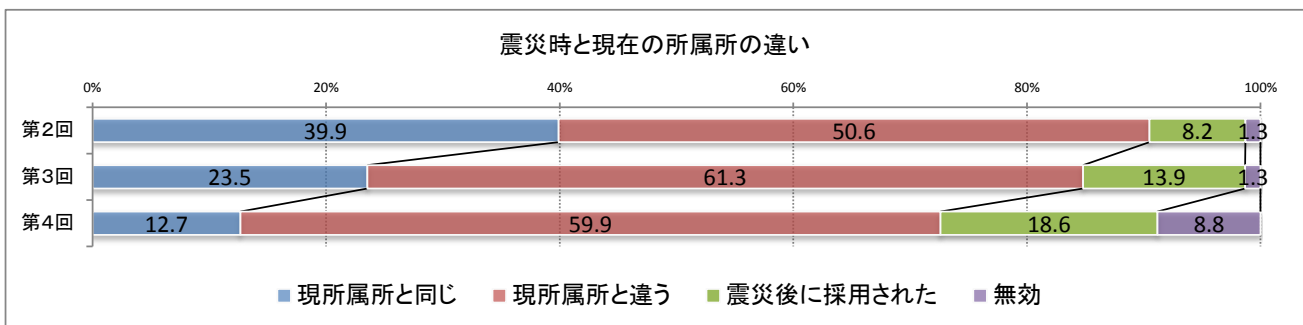
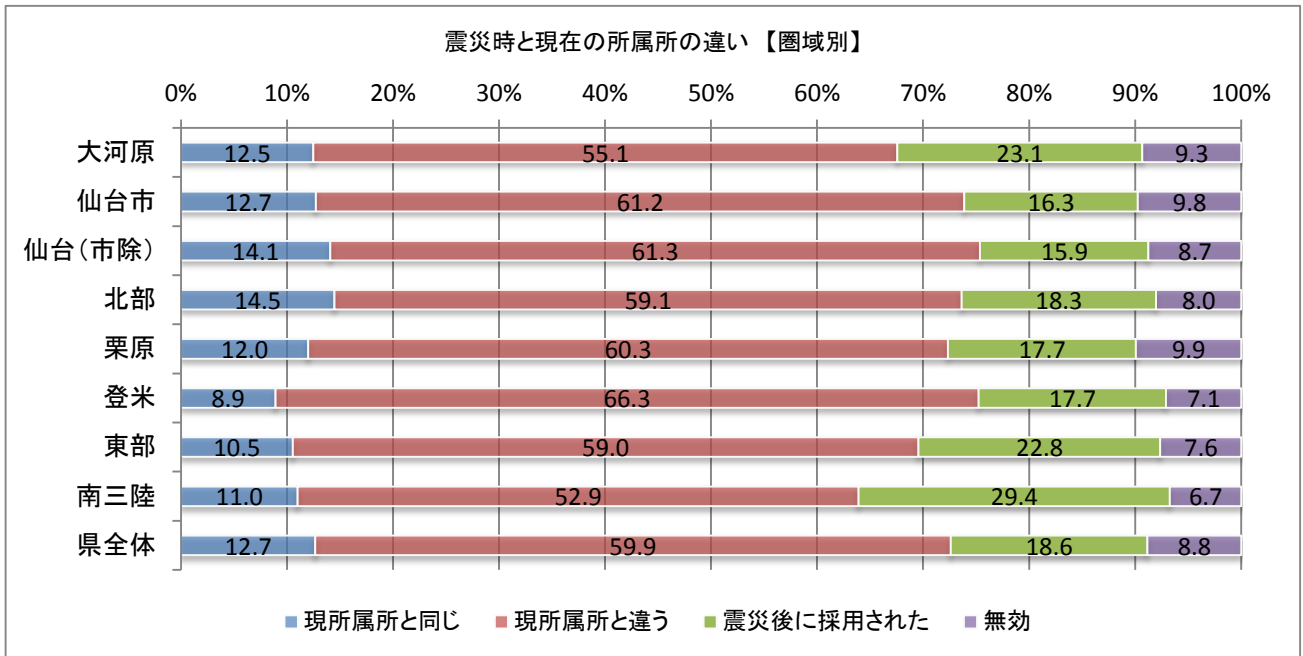
【性別】

(単位:人,%)

男	8,425	53.0
女	7,376	46.4
不明	97	0.6
合計	15,898	100.0

■ 震災時と現在の所属所の違い

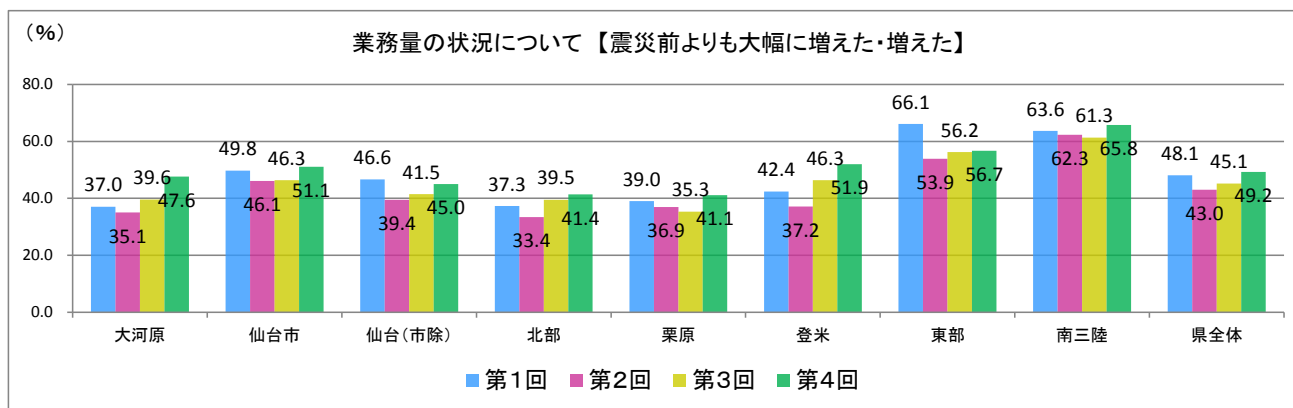
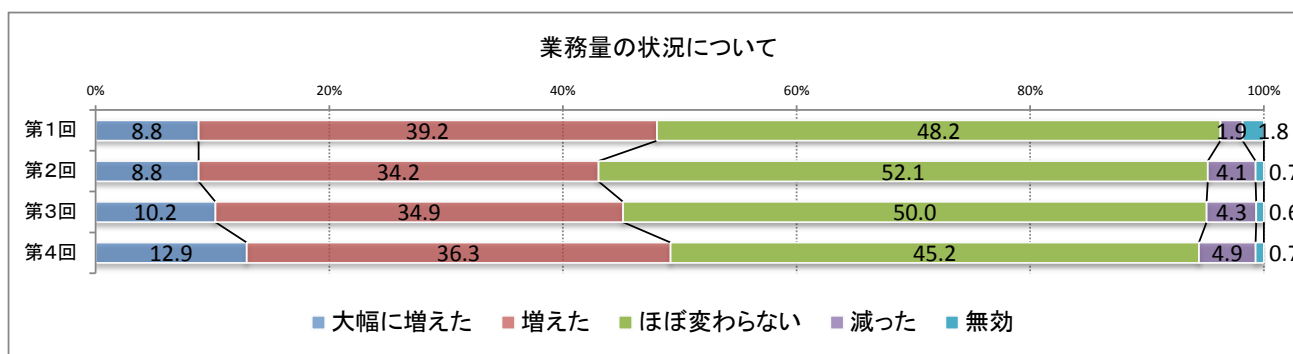
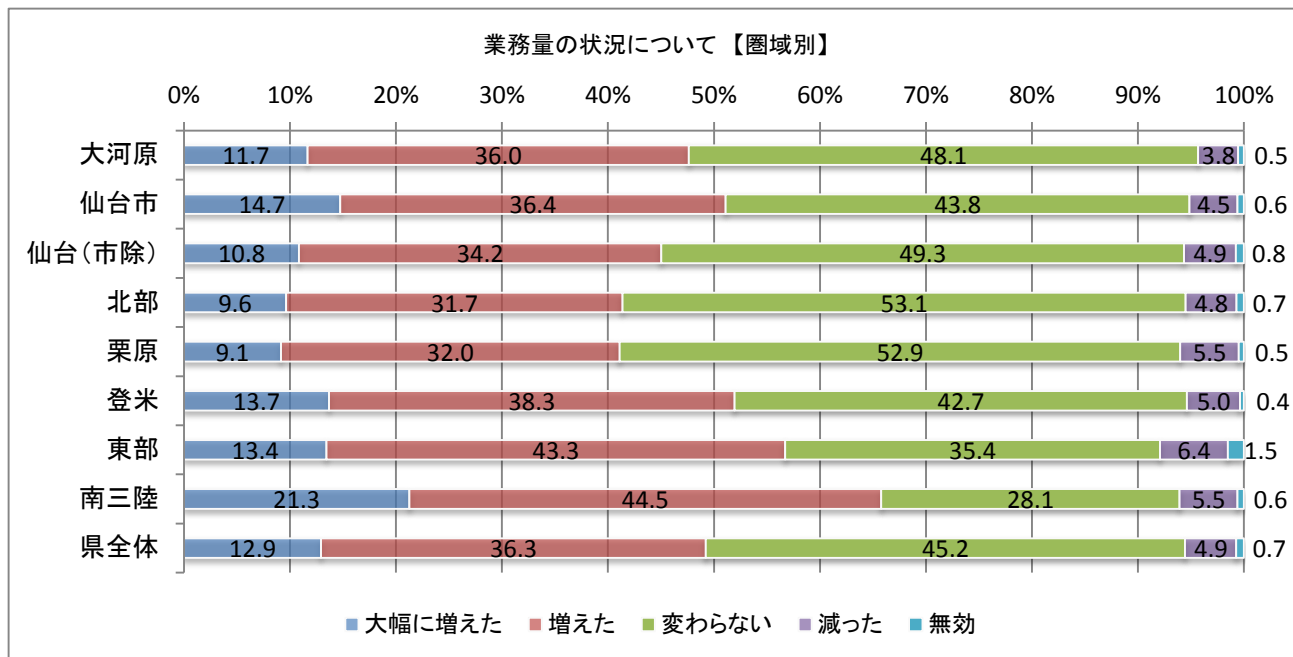
震災時と同じ所属所のままの教職員は2,014人(12.7%)となり、前回(23.5%)より10ポイントほど減少した。異動した教職員9,528人(59.9%)は、前回(61.3%)とほぼ同じく約6割を占め、震災後に採用された教職員は2,952人(18.6%)で、前回(13.9%)より5ポイントほど増加した。



■ 現在の状況

(1) 業務量の状況について

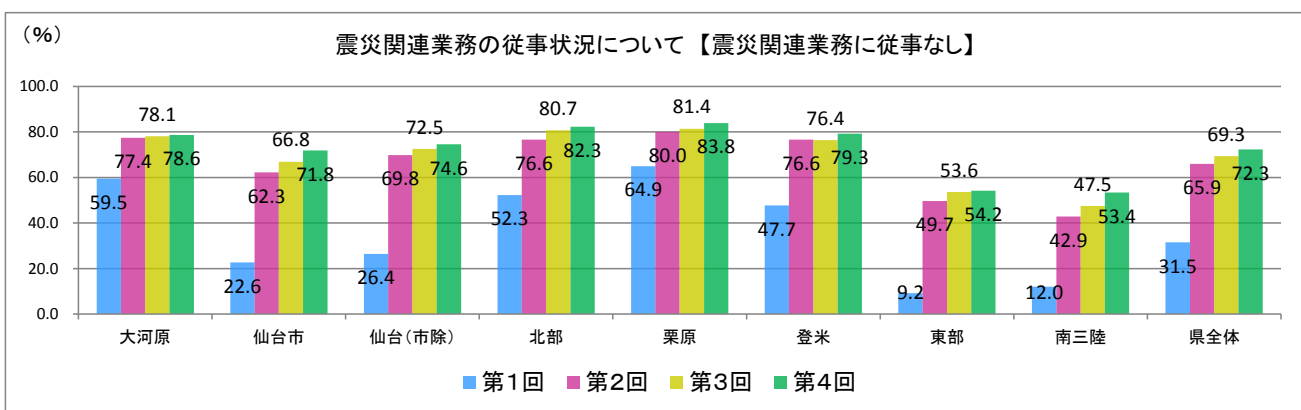
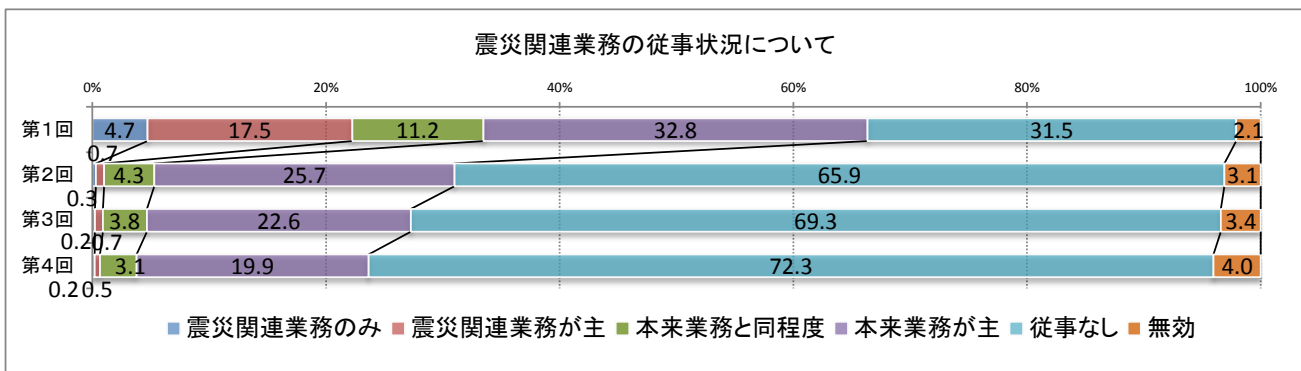
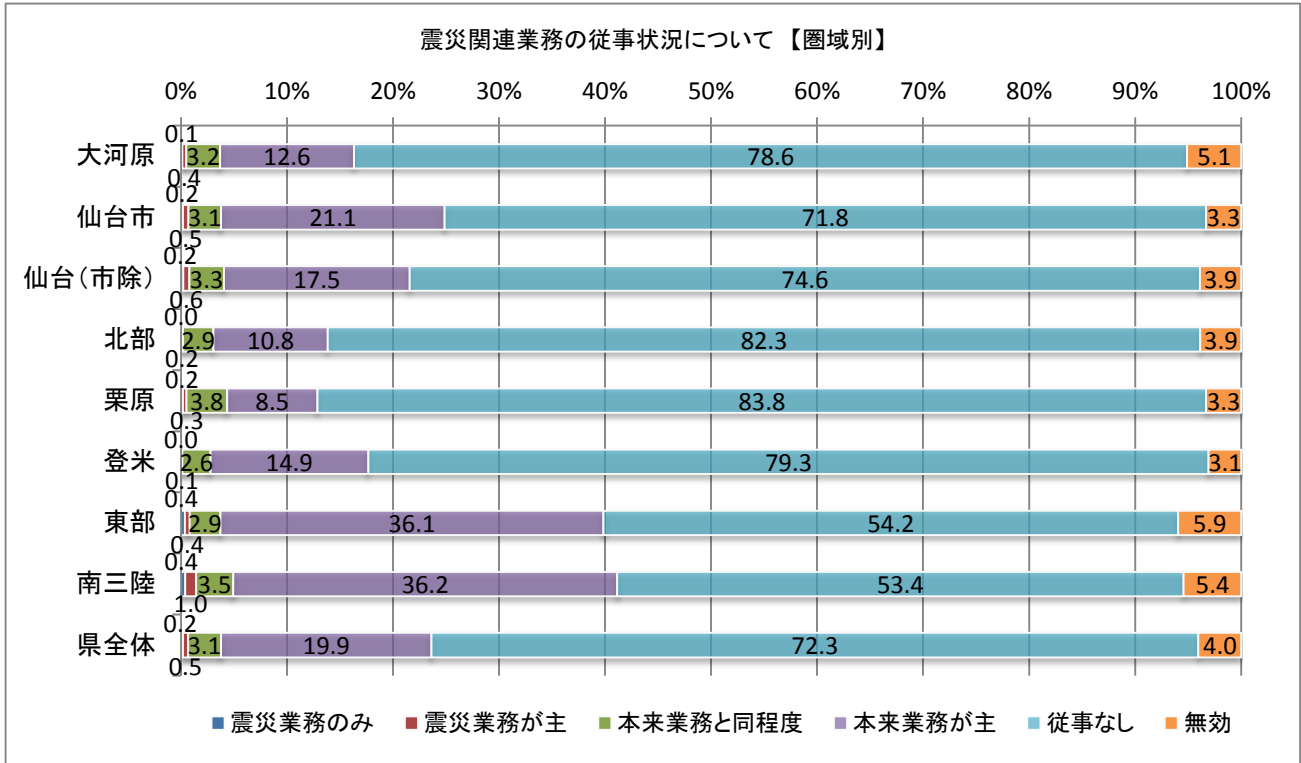
震災後に採用された教職員と無効を除く回答者のうち仙台市（51.1%）、登米圏域（51.9%）、東部圏域（56.7%）、南三陸圏域（65.8%）では半数以上の教職員が「大幅に増えた」または「増えた」と回答している。全体では、「大幅に増えた」が10.2%から12.9%に、「増えた」が34.9%から36.3%と前回より増加している。「大幅に増えた」と「増えた」を合わせると、前回に比べすべての圏域で増加している。中でも大河原圏域（39.6%→47.6%）、栗原圏域（35.3%→41.1%）、登米圏域（46.3%→51.9%）が5ポイント以上増加した。



(2) 震災関連業務の従事状況について

回答者の92.2%(14,656人)が「本来業務が主」または「従事なし」と回答し、前回(91.9%)よりも震災関連業務に従事していないとする回答が増加した。前回、「従事なし」が5割未満だった南三陸圏域(47.5%→53.4%)も初めて5割を超え、すべての圏域で5割以上となった。

前回にも増して、すべての圏域で「従事なし」の割合が大きくなっている。調査を重ねるにつれ、その割合は大きくなっている。

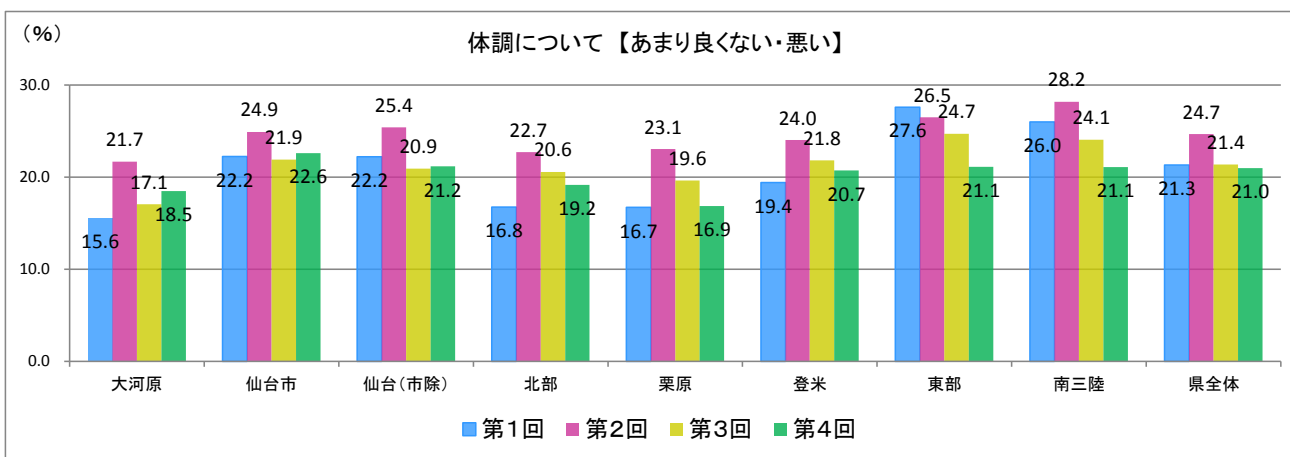
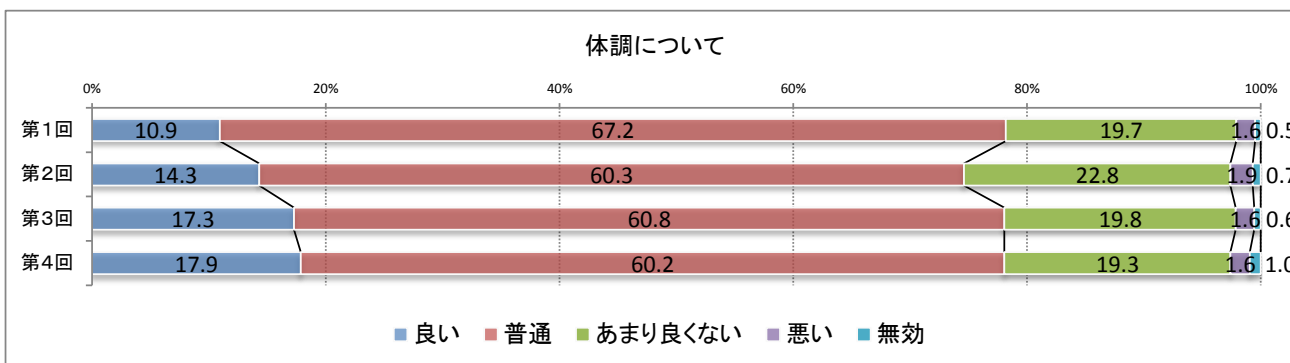
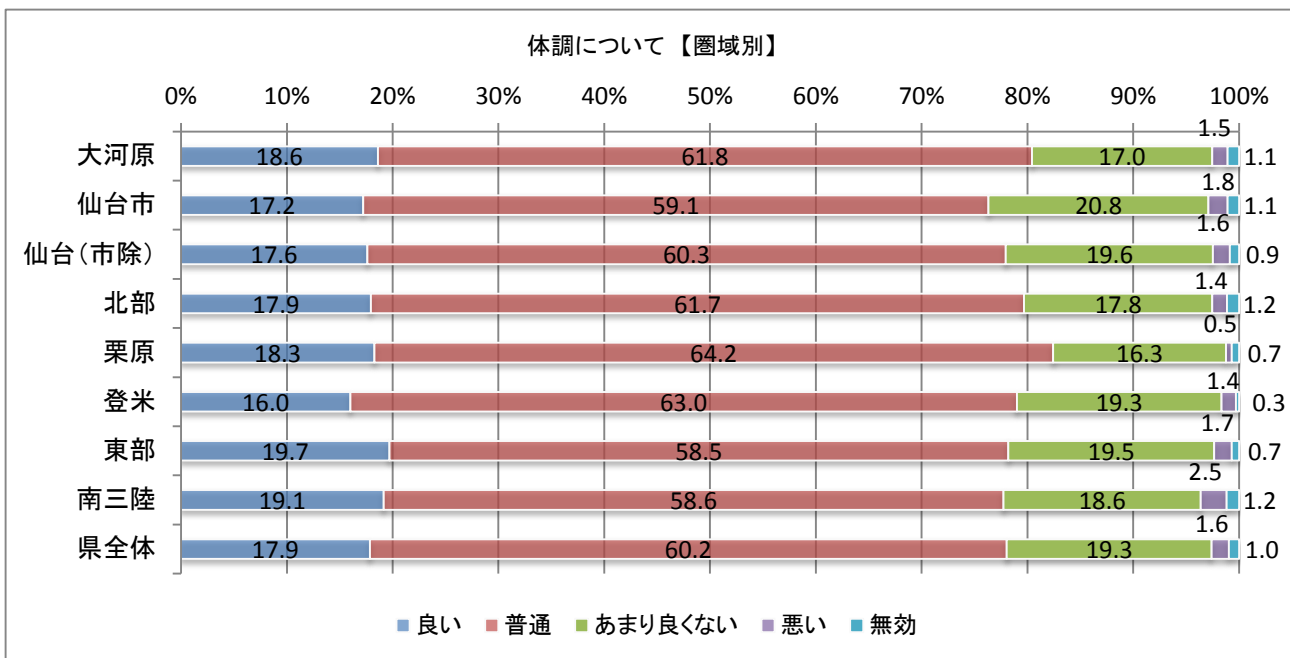


■ 現在の健康状態

(1) 体調について

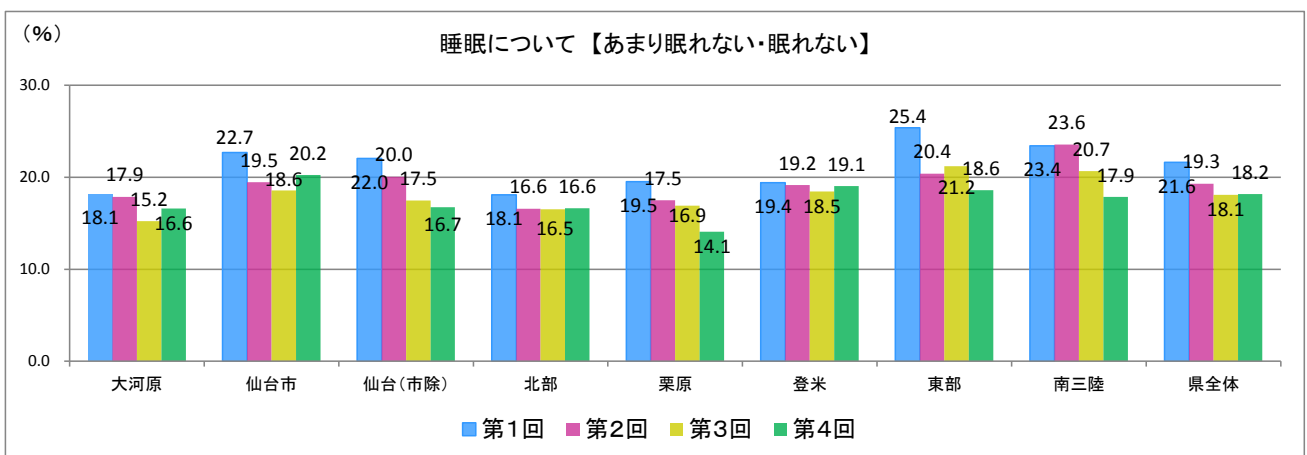
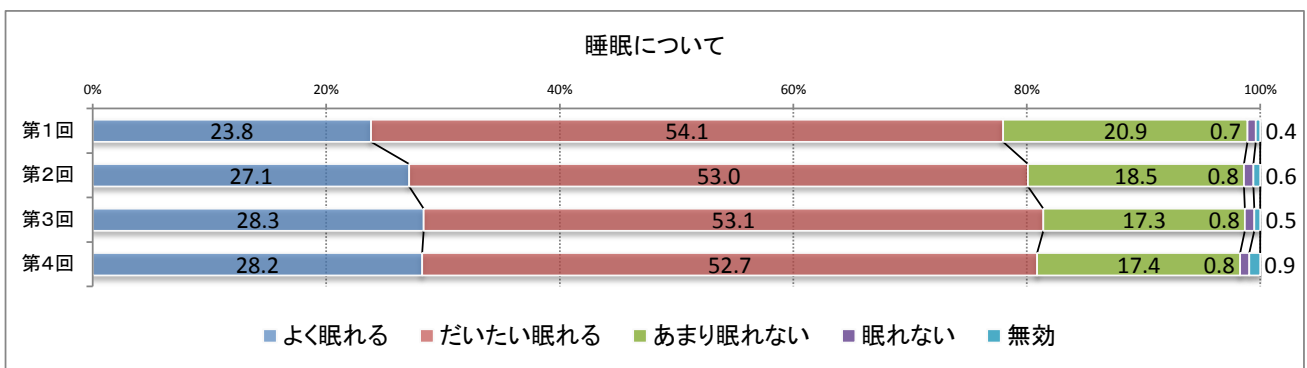
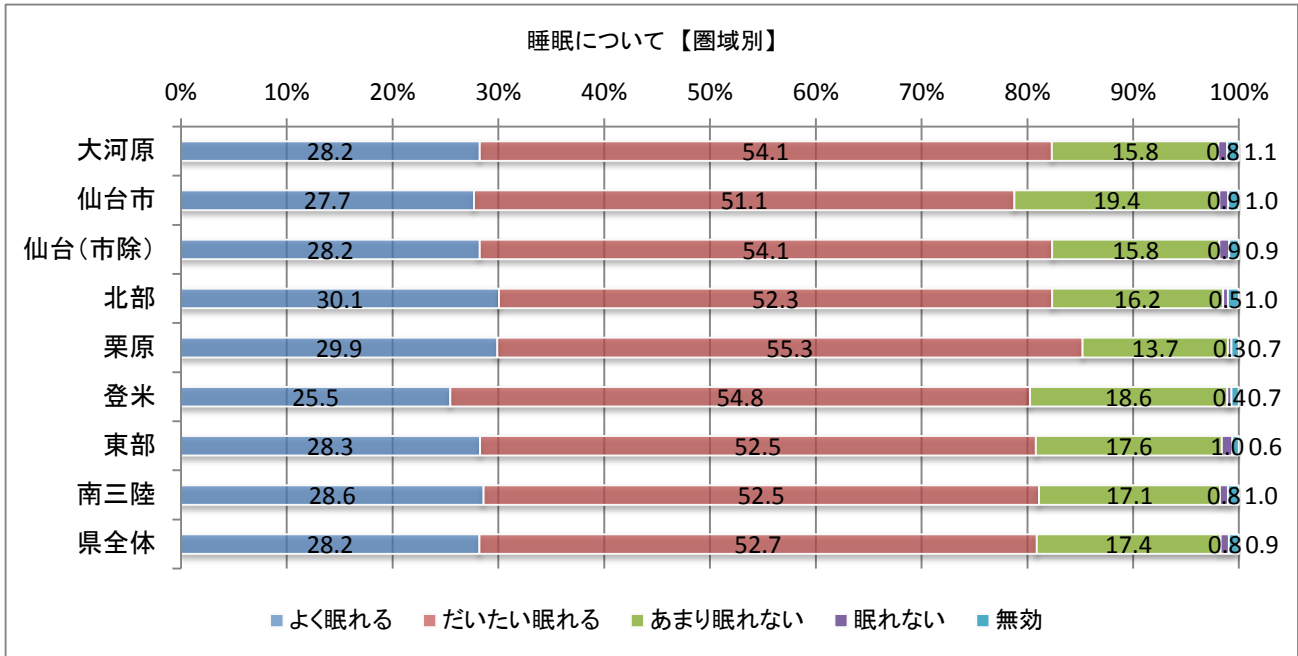
回答者の78.1% (12,409人) の教職員が「良い」または「普通」と回答している。なかでも「良い」と回答した割合が17.9%と前回(17.3%)よりやや大きくなっている。

また、「あまり良くない」と「悪い」を合わせると、栗原圏域(19.6%→16.9%)、東部圏域(24.7%→21.1%)、南三陸圏域(24.1%→21.1%)で大きく減少したが、大河原圏域(17.1%→18.5%)、仙台市(21.9%→22.6%)、仙台(市除)圏域(20.9%→21.2%)では、やや増加している。



(2) 睡眠について

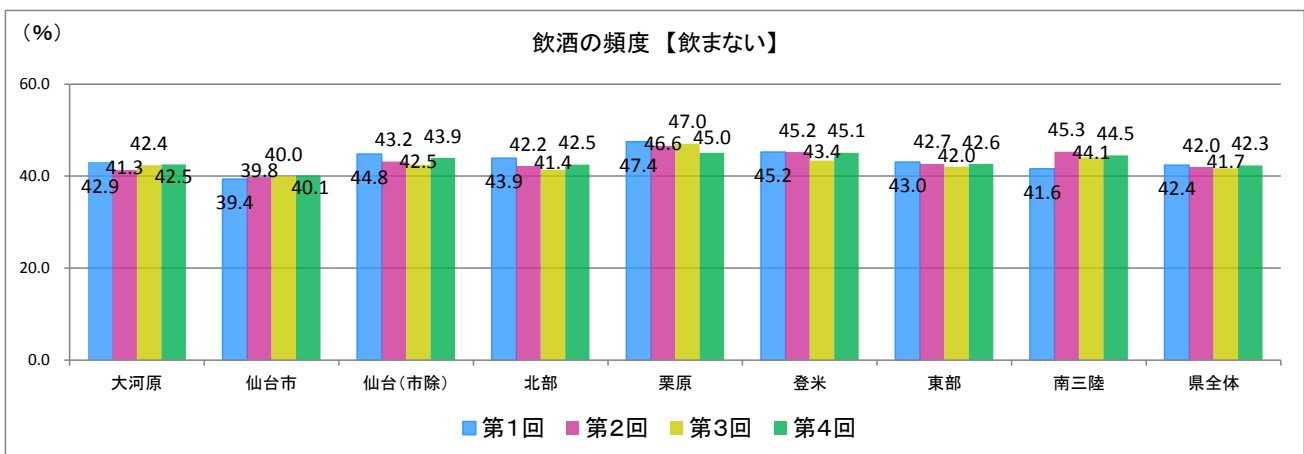
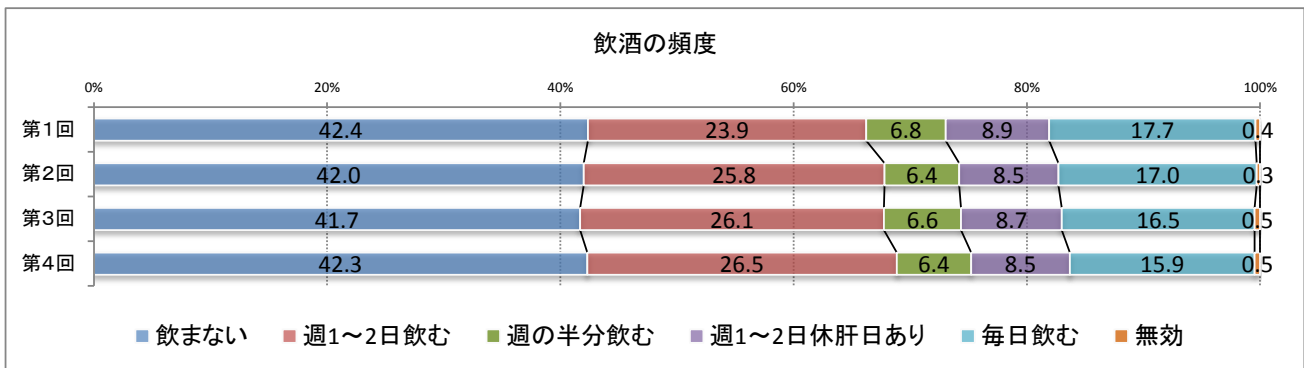
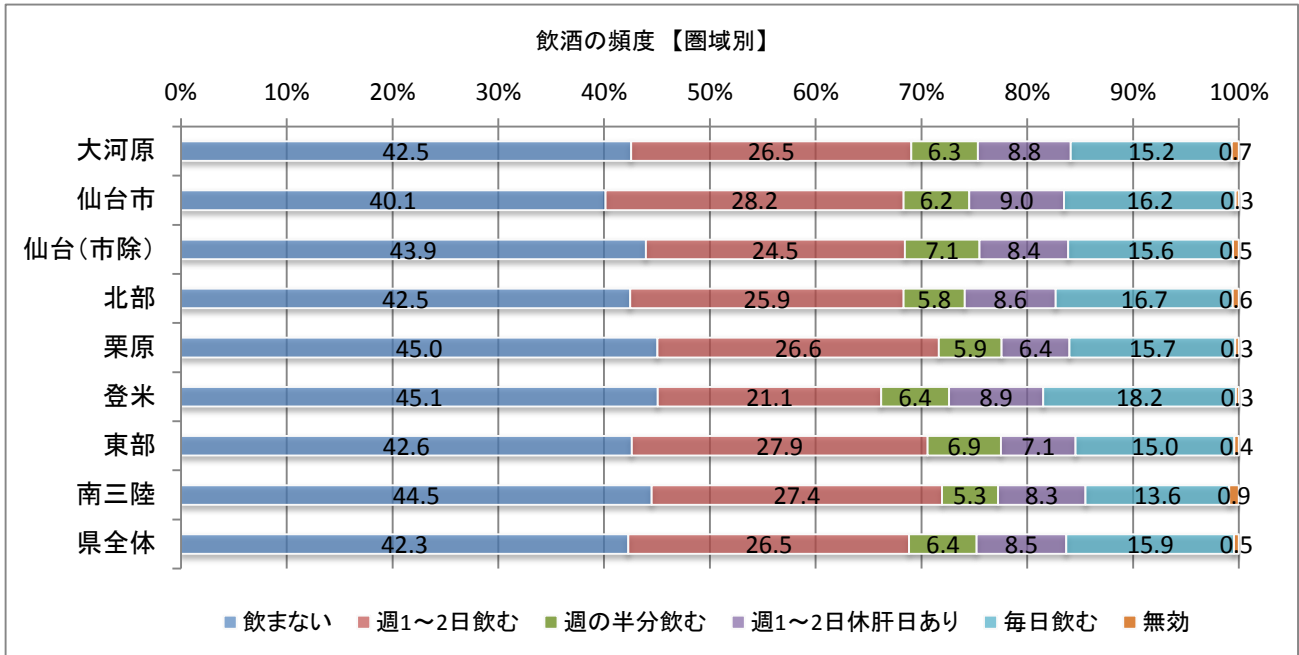
回答者の80.9%(12,860人)が「よく眠れる」または「だいたい眠れる」と回答している。前回(81.4%)から若干減少したものの大きな変化はなかった。また、「あまり眠れない」と「眠れない」を合わせた人の割合(18.1%→18.2%)も変化はなかった。圏域別でみると、眠れない人の割合は、栗原圏域(16.9%→14.1%)、東部圏域(21.2%→18.6%)、南三陸圏域(20.7%→17.9%)で減少し、大河原圏域(15.2%→16.6%)と仙台市(18.6%→20.2%)では増加した。



(3) 飲酒について

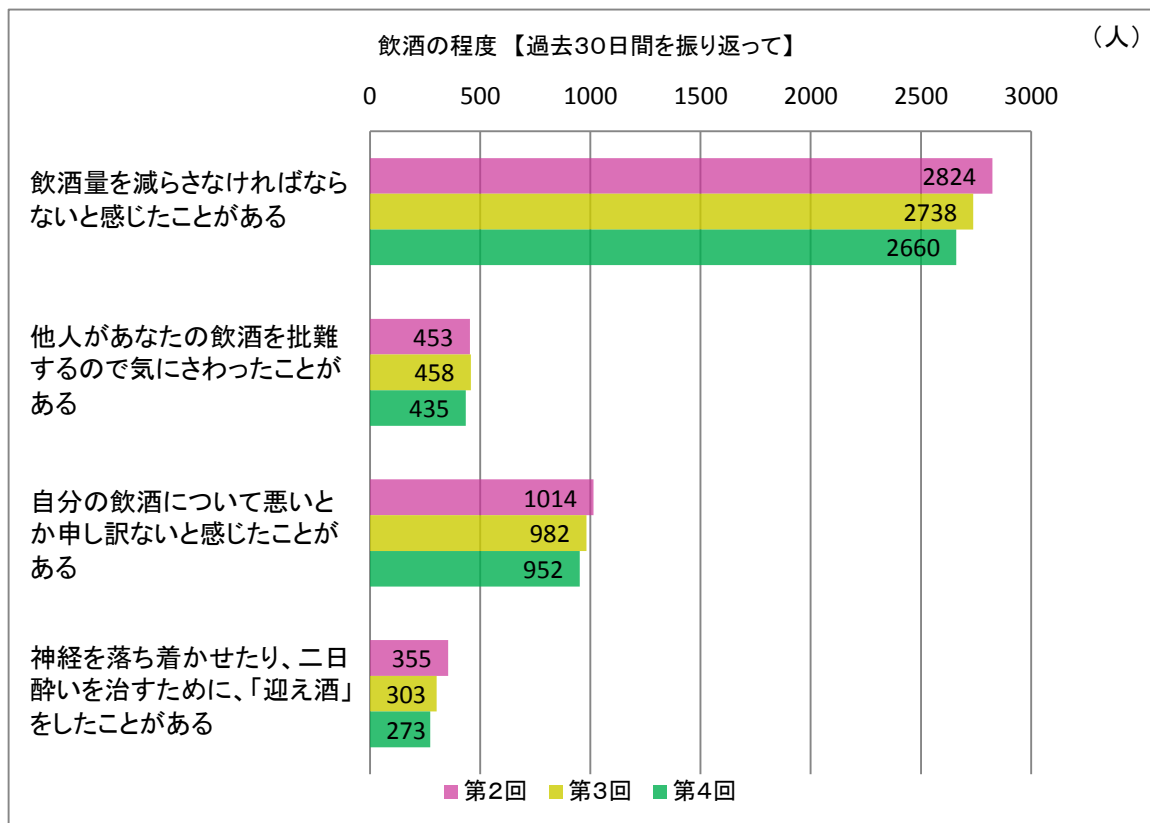
① 飲酒の頻度

回答者の42.3%（6,725人）が「飲まない」と回答している。全体、圏域別に見ても、前回とほぼ変わらない傾向だが、「毎日飲む」の割合が毎回少しずつ減少している（17.7%→17.0%→16.5%→15.9%）。



② 過去30日間を振り返って

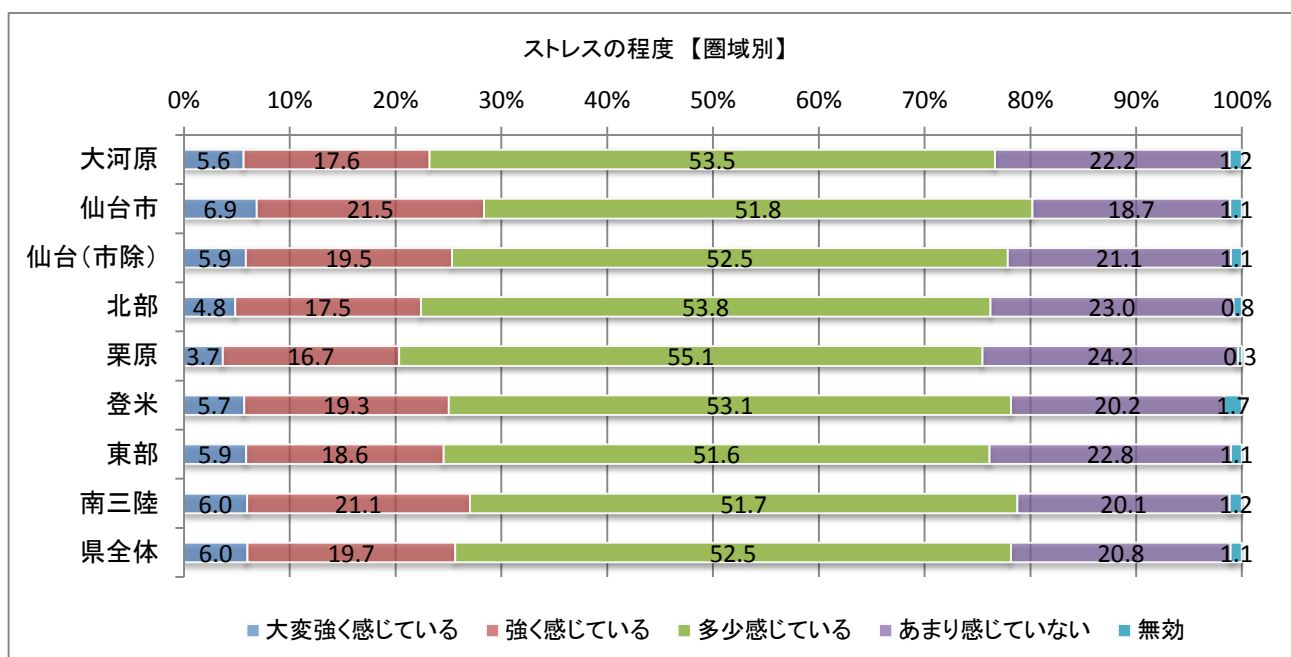
「お酒を飲む」と回答した57.3%（9,099人）の中で、「飲酒量を減らさなければならぬと感じたことがある」が29.2%（2,660人）で一番多く、次いで「自分の飲酒について悪いとか申し訳ないと感じたことがある」10.5%（952人）の順となっており、前回と同様の傾向となった。

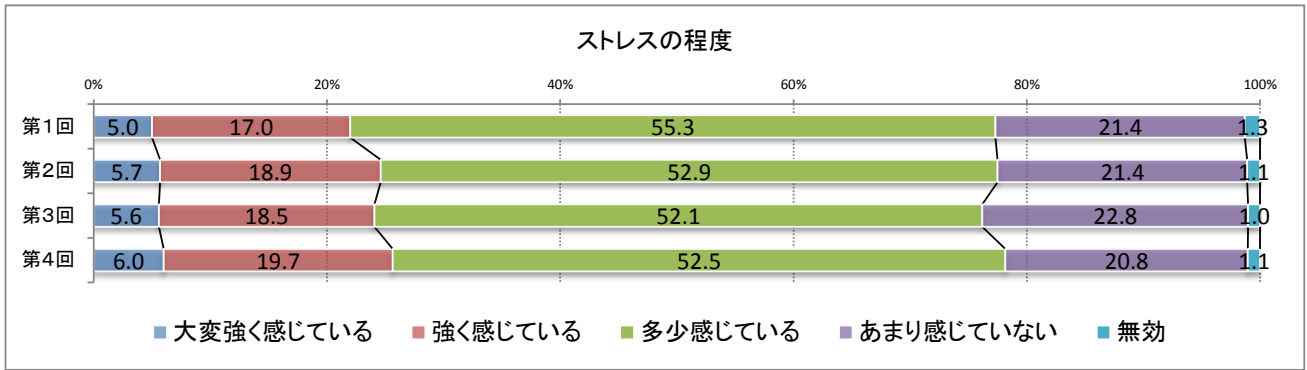


(4) ストレスについて

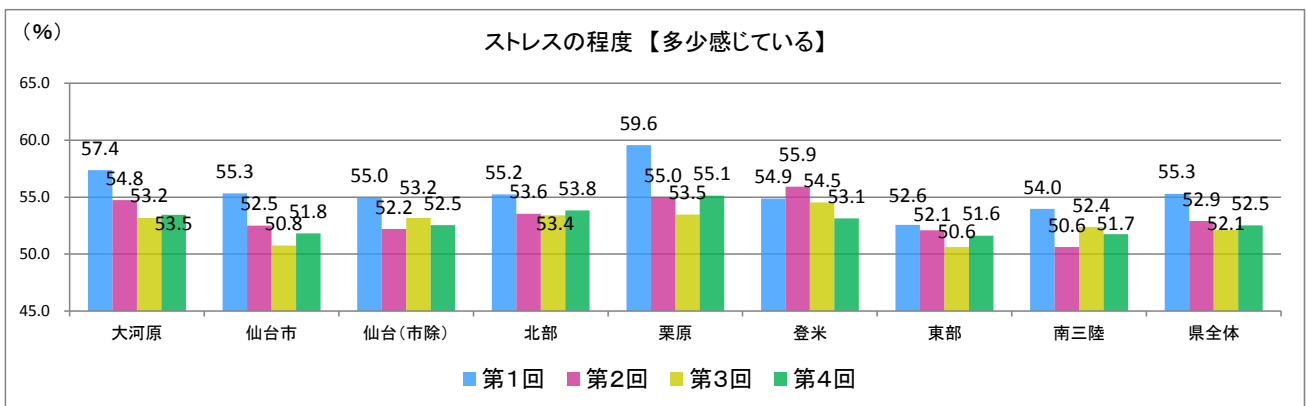
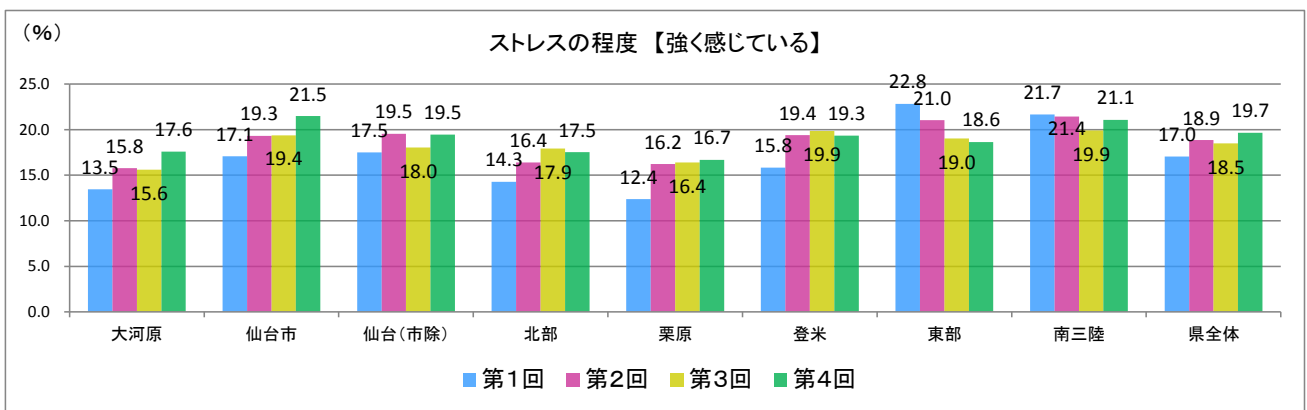
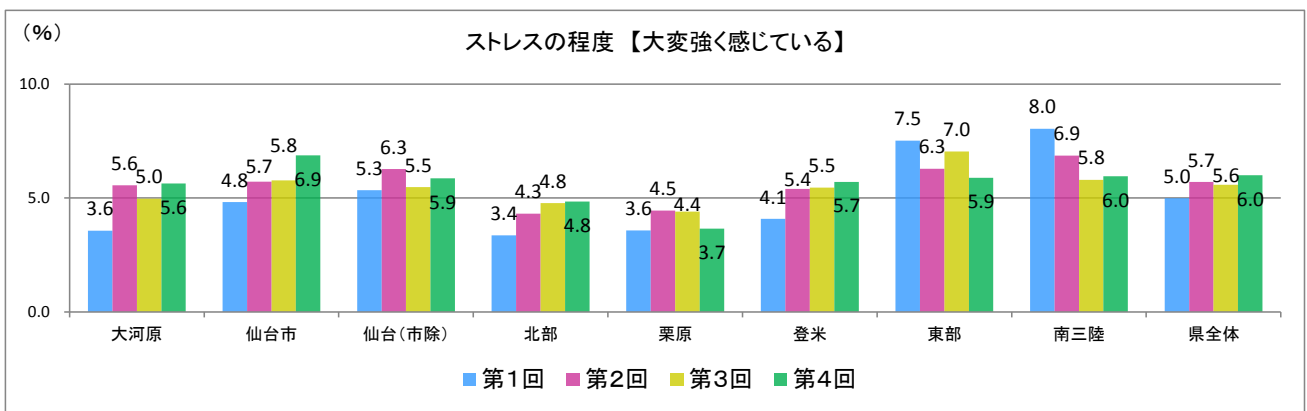
① ストレスの程度

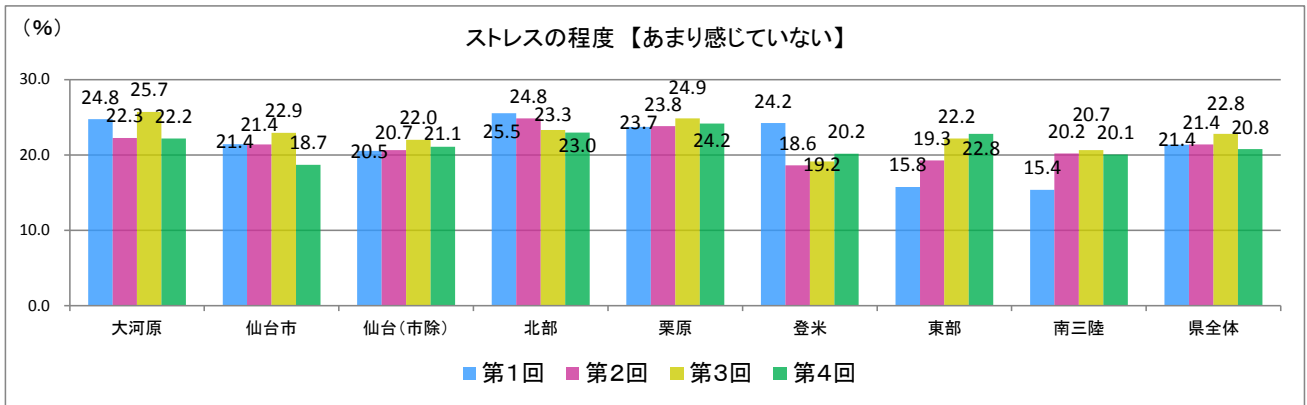
回答者の25.7%（4,077人）がストレスを「大変強く」または「強く」感じており、前回（24.1%）よりやや増加したことにより、「あまり感じていない」の割合（20.8%）が前回（22.8%）より減少した。





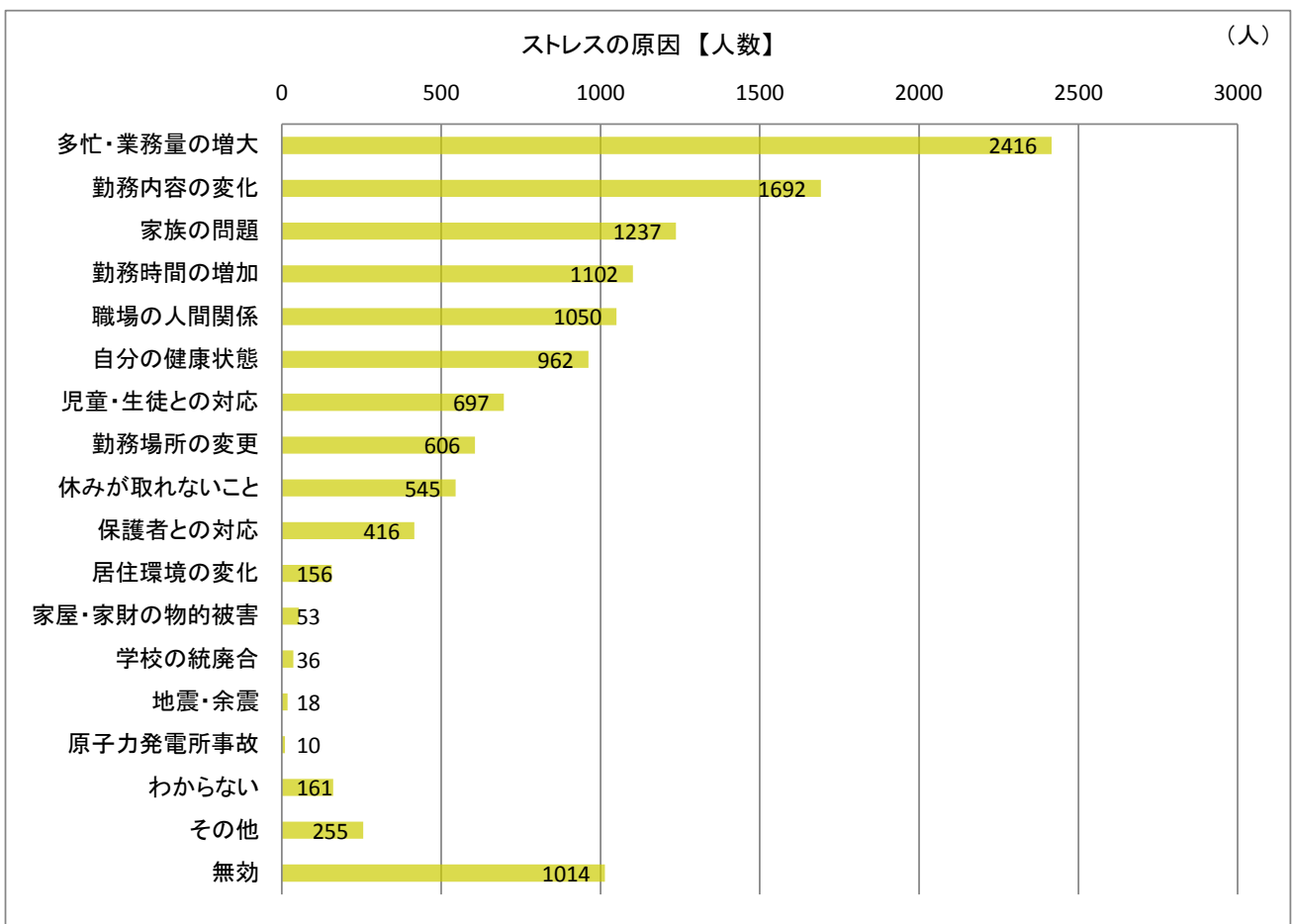
次に、圏域別に前回調査と比較すると、「大変強く感じている」では、大河原圏域（5.0%→5.6%）、仙台市（5.8%→6.9%）、仙台（市除）圏域（5.5%→5.9%）、「強く感じている」でも、大河原圏域（15.6%→17.6%）、仙台市（19.4%→21.5%）、仙台（市除）圏域（18.0%→19.5%）で割合が大きくなった。「あまり感じていない」では、登米圏域（19.2%→20.2%）と東部圏域（22.2%→22.8%）でやや増加した。全体としては、ストレスを感じる割合が前回よりもやや増加している。





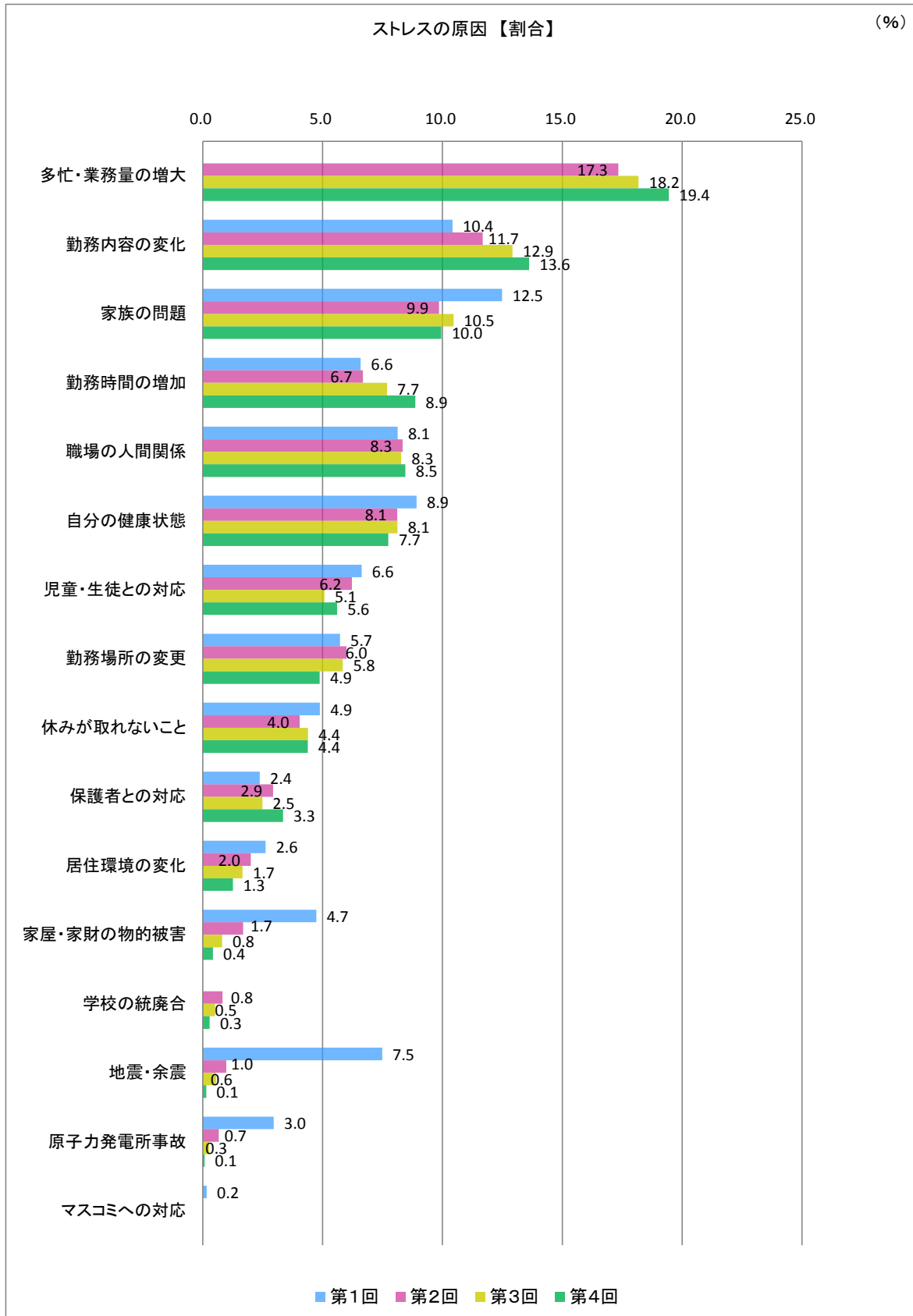
② ストレスの原因

今回もストレスの原因の第1位は、前回同様「多忙・業務量の増大（第2回から項目追加）」(2,416人)であった。「勤務内容の変化」「家族の問題」「職場の人間関係」は、これまでと同様に回答者が1,000人を超えている。また、「勤務時間の増加」(1,102人)が、初めて1,000人を超えた。

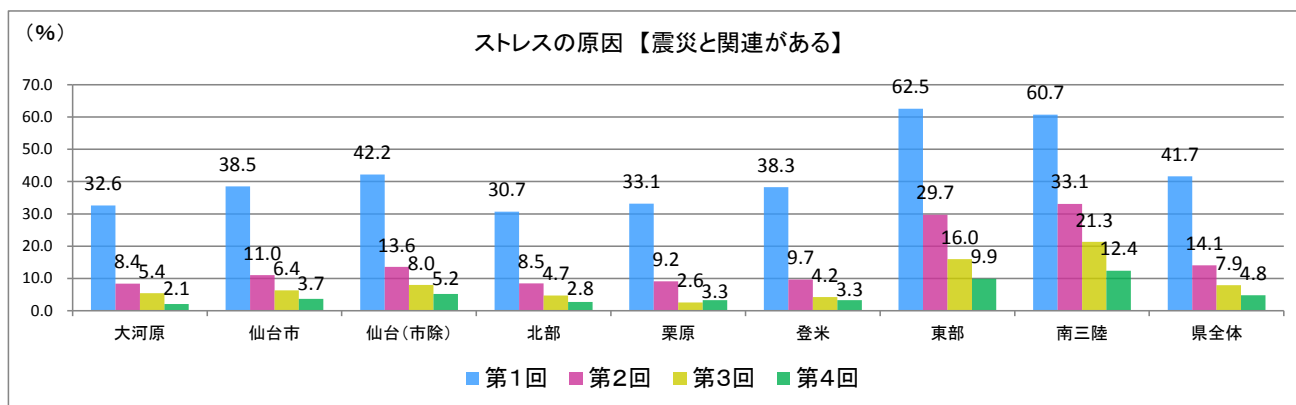


※複数回答なし

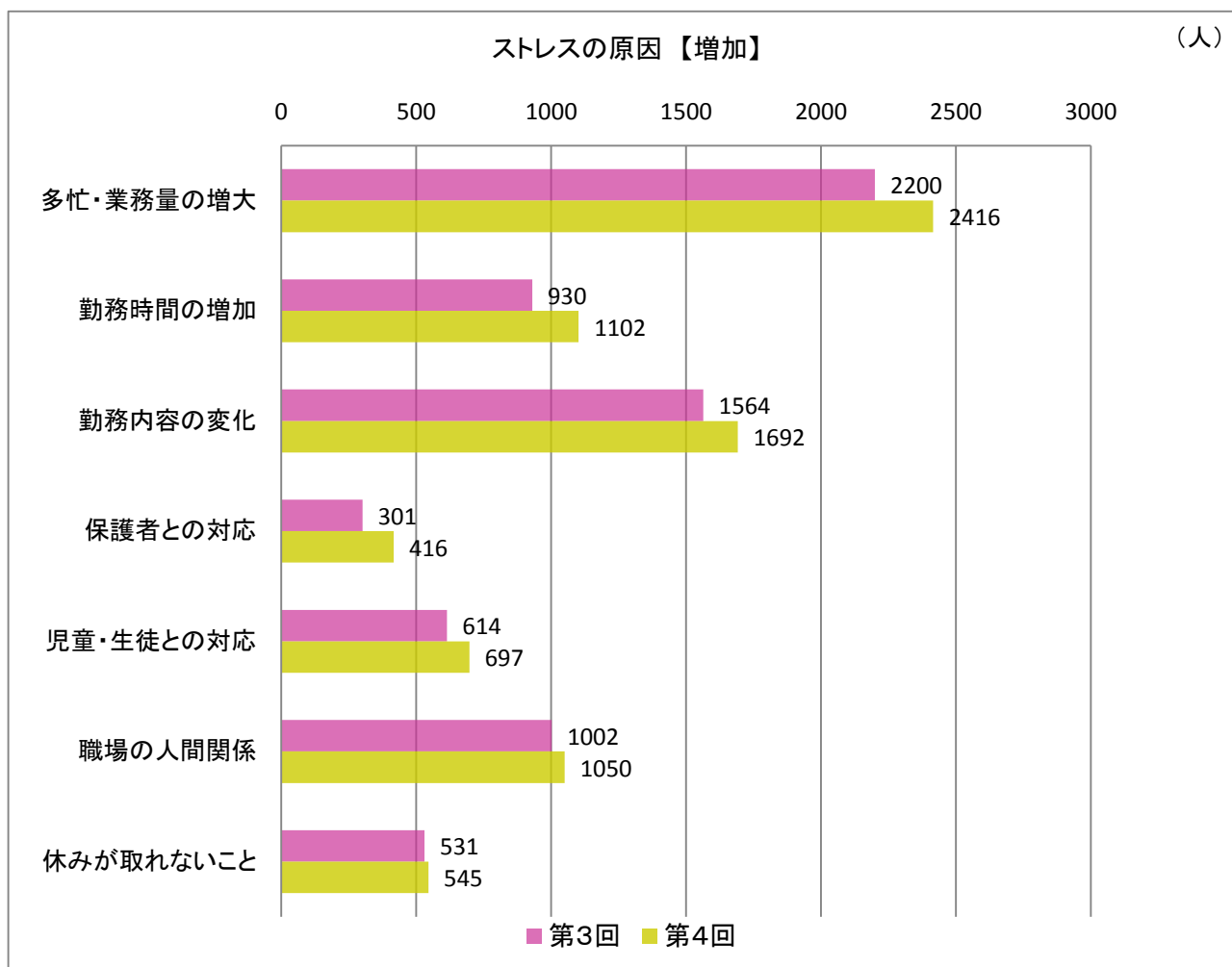
一番のストレスの原因についてこれまでの調査と比較をすると、最も割合の多い「多忙・業務量の増大」が（18.2%→19.4%）、「勤務内容の変化」が（12.9%→13.6%）、そのほか「勤務時間の増加」が（7.7%→8.9%）と徐々に割合が大きくなっている。「勤務時間の増加」（8.9%）は、「職場の人間関係」（8.5%）、「自分の健康状態」（7.7%）よりも割合が大きくなった。震災関連の「家屋・家財の物的被害」（0.8%→0.4%）「地震・余震」（0.6%→0.1%）「原子力発電所事故」（0.3%→0.1%）は、さらに割合が小さくなっている。

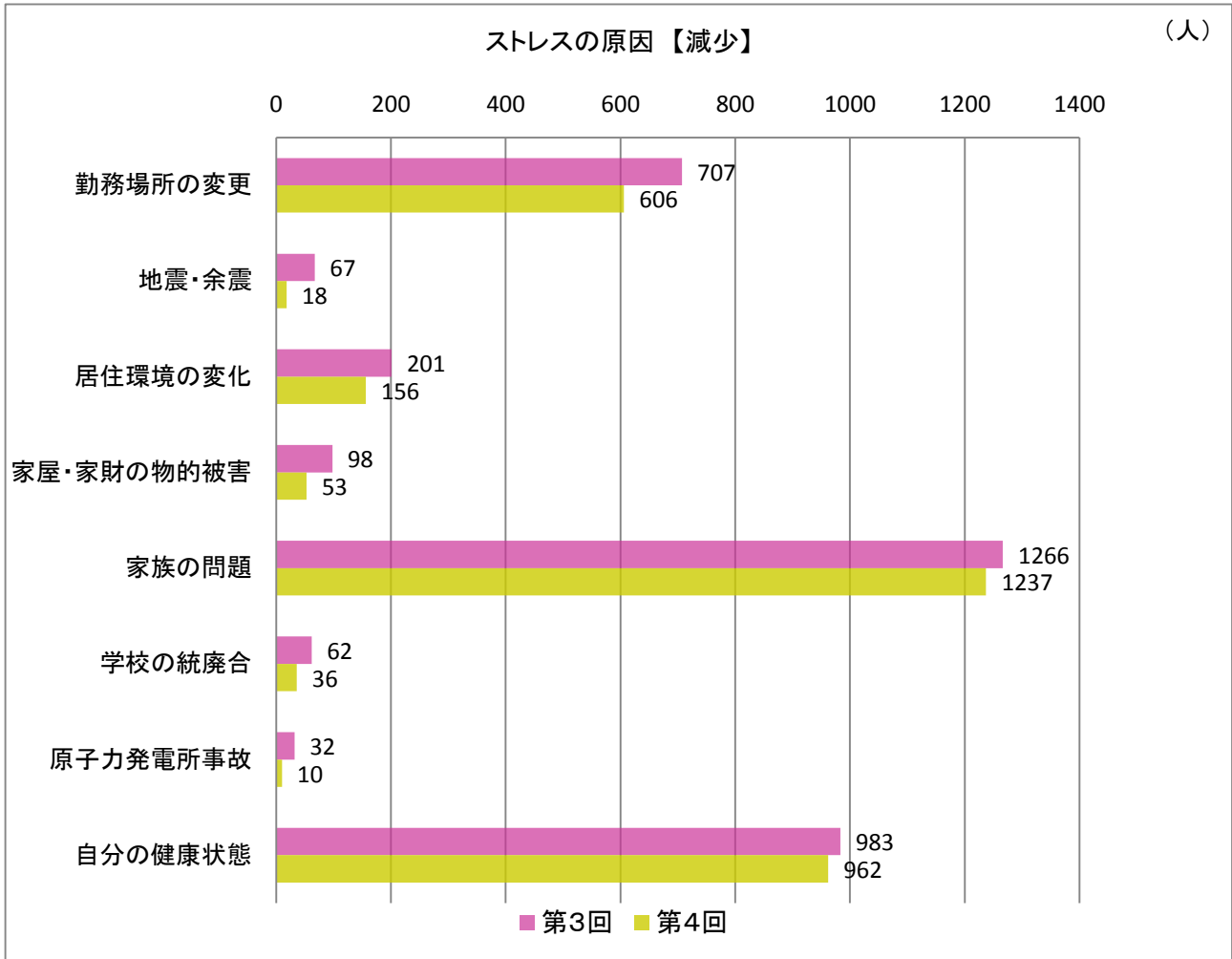


一番のストレスの原因が「震災と関連があるかどうか」という設問では、県全体で、前回の7.9%よりさらに減少し、4.8%となった。また、圏域別では東部圏域（16.0%→9.9%）と南三陸圏域（21.3%→12.4%）が大幅に減少している。



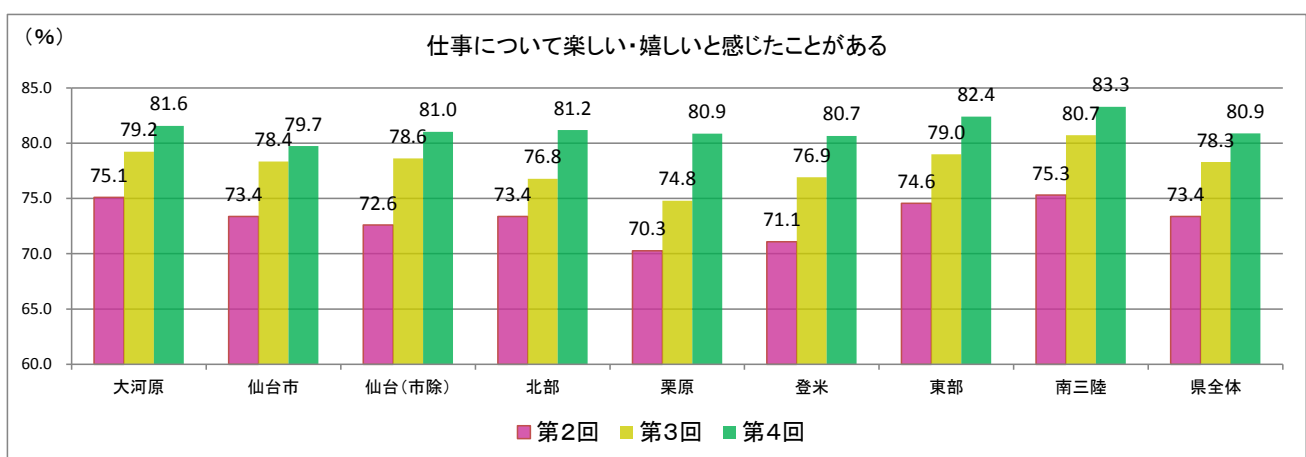
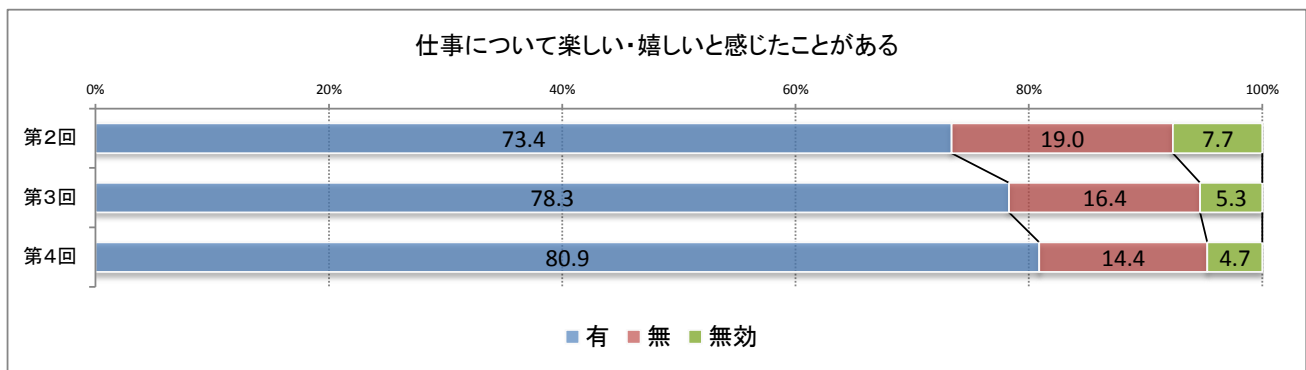
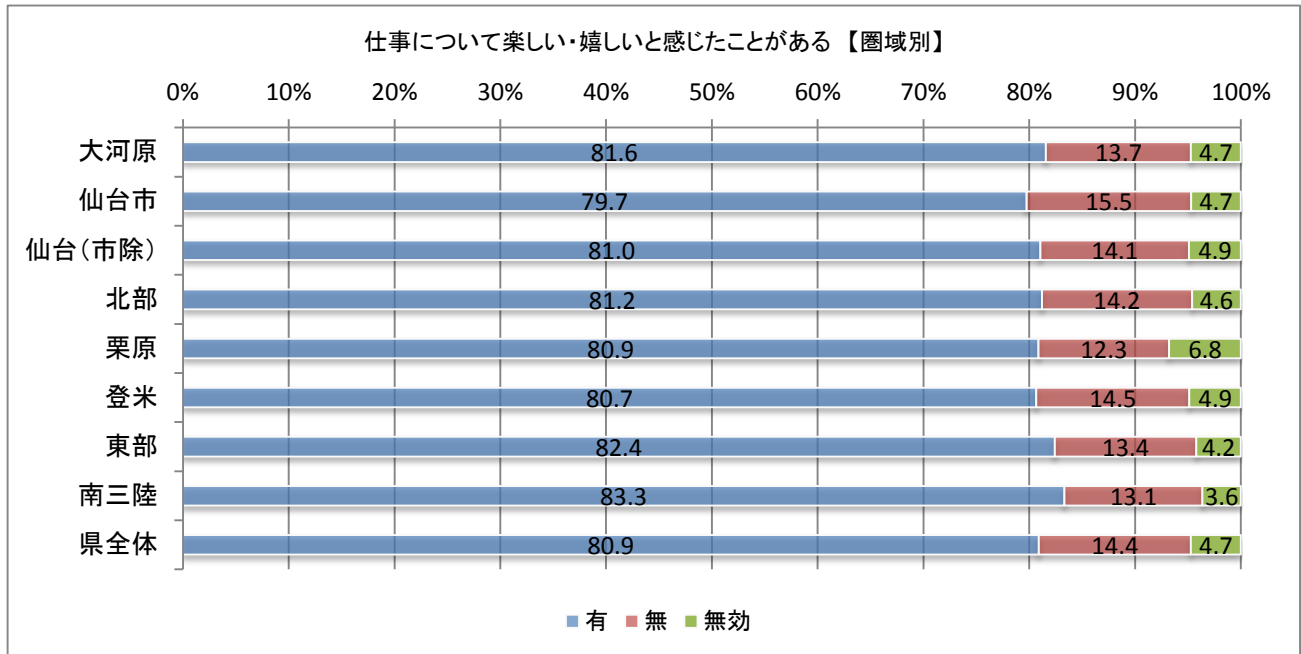
次に、前回調査と比較して、増加幅の多い順に見ると、「多忙・業務量の増大」(2,200人→2,416人)、「勤務時間の増加」(930人→1,102人)、「勤務内容の変化」(1,564人→1,692人)、「保護者との対応」(301人→416人)が多かった。減少した中では、「地震・余震」(67人→18人)、「家屋・家財の物的被害」(98人→53人)、「原子力発電所事故」(32人→10人)と震災に直接関係のある項目が減少し、多忙・業務量の増加など、通常の勤務におけるストレスへと原因がシフトしていると考えられる。





(5) 仕事について

この一年、仕事について「楽しい・嬉しいと感じたことがある」との設問では、初めて80%を超え、80.9%（12,860人）と、前回（78.3%）より改善している。圏域別でも、すべての圏域で前回より大きくなっており、特に、栗原圏域（74.8%→80.9%）での割合が顕著であった。



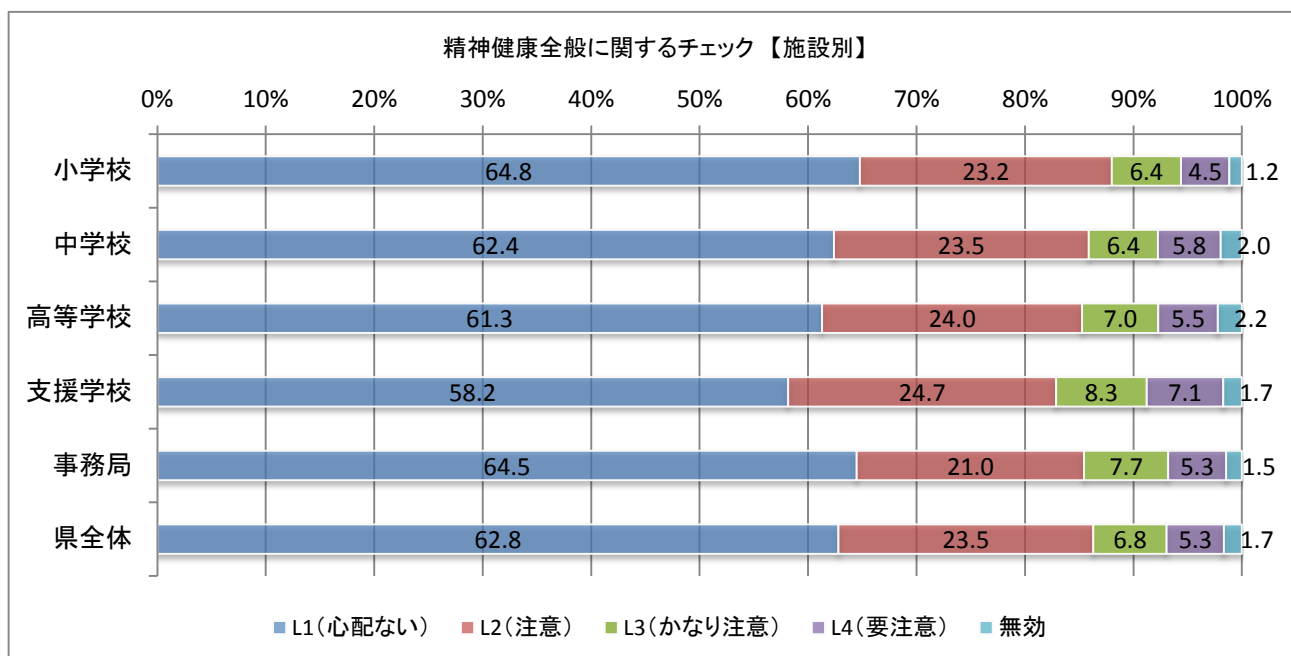
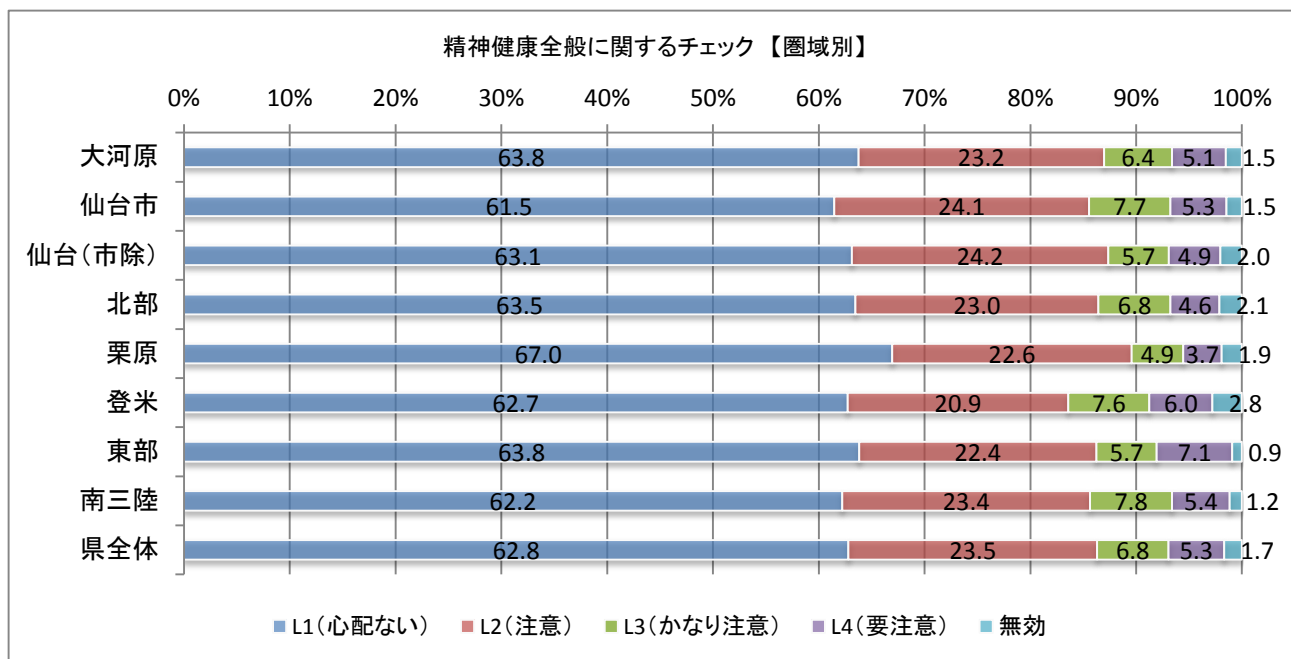
■ メンタルヘルスの状況

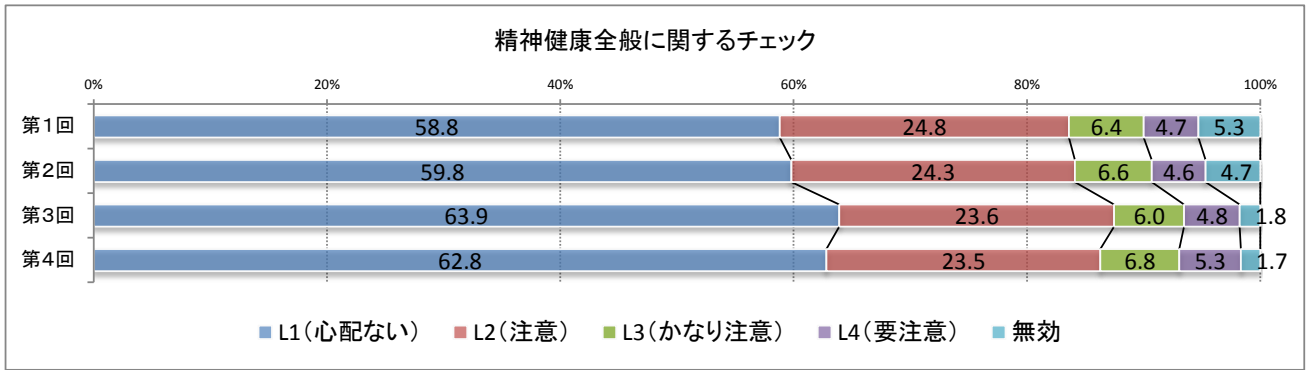
(1) 精神健康全般に関するチェック

精神健康全般に関しては、6項目の質問（K6）により4つのレベルで評価を行った。

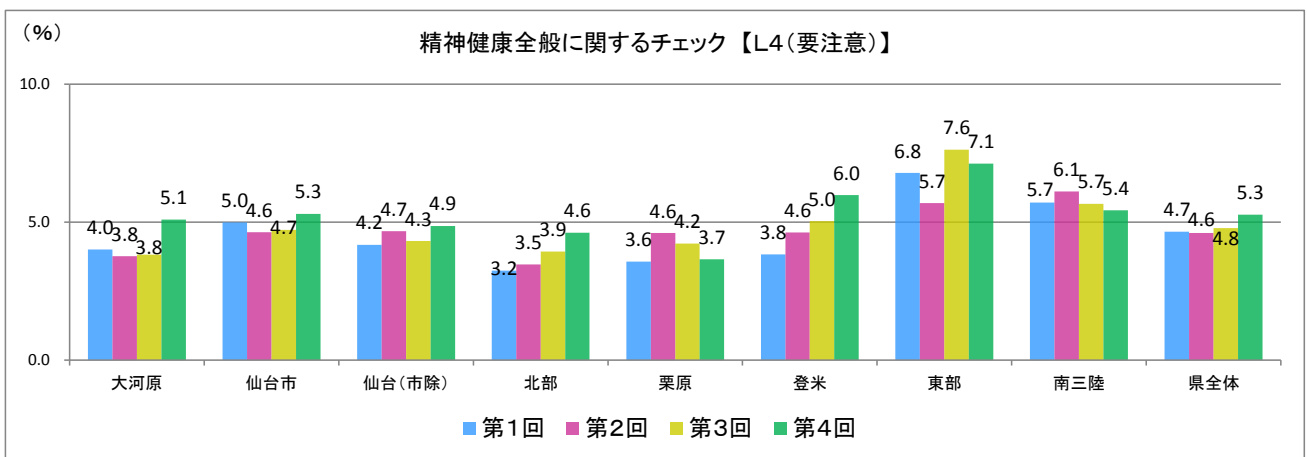
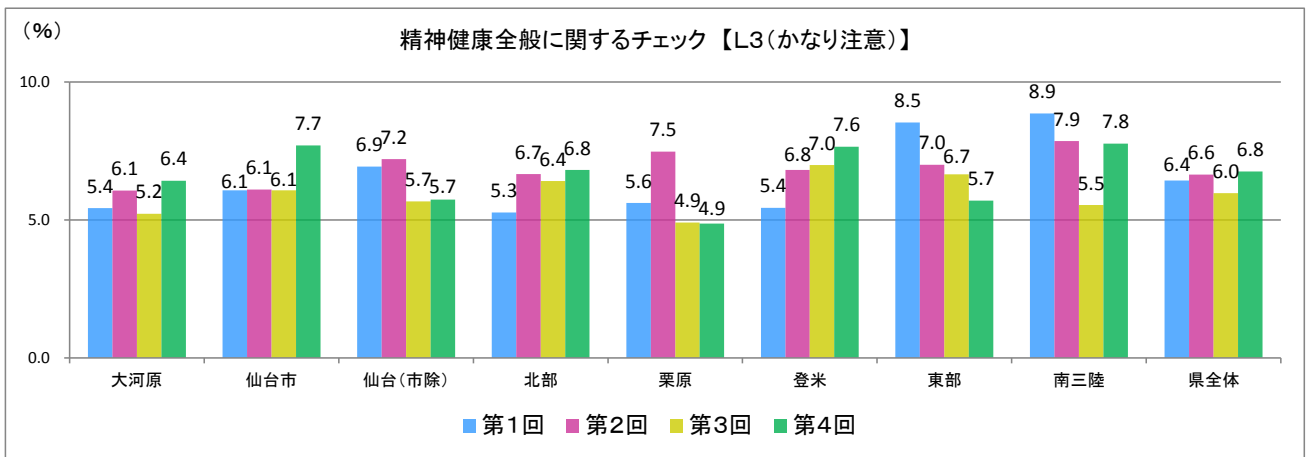
その結果、レベル1（心配ない）は62.8%（9,985人）、レベル2（注意が必要）は23.5%（3,735人）で、合わせて86.3%の教職員はセルフケアで対応可能とされるレベル2以下であり、前回（87.5%）よりやや減少した。

レベル3（かなり注意が必要）は6.8%（1,074人）、レベル4（要注意）は5.3%（839人）となっており、前回と比べやや増加した。





精神健康全般に関するチェックレベル3、レベル4について圏域別に見ると、レベル3（かなり注意が必要）で大きく増加しているのは、大河原圏域（5.2%→6.4%）、仙台市（6.1%→7.7%）、北部圏域（6.4%→6.8%）、登米圏域（7.0%→7.6%）、南三陸圏域（5.5%→7.8%）で、レベル4（要注意）では、大河原圏域（3.8%→5.1%）、仙台市（4.7%→5.3%）、仙台（市除）圏域（4.3%→4.9%）、北部圏域（3.9%→4.6%）、登米圏域（5.0%→6.0%）が増えている。

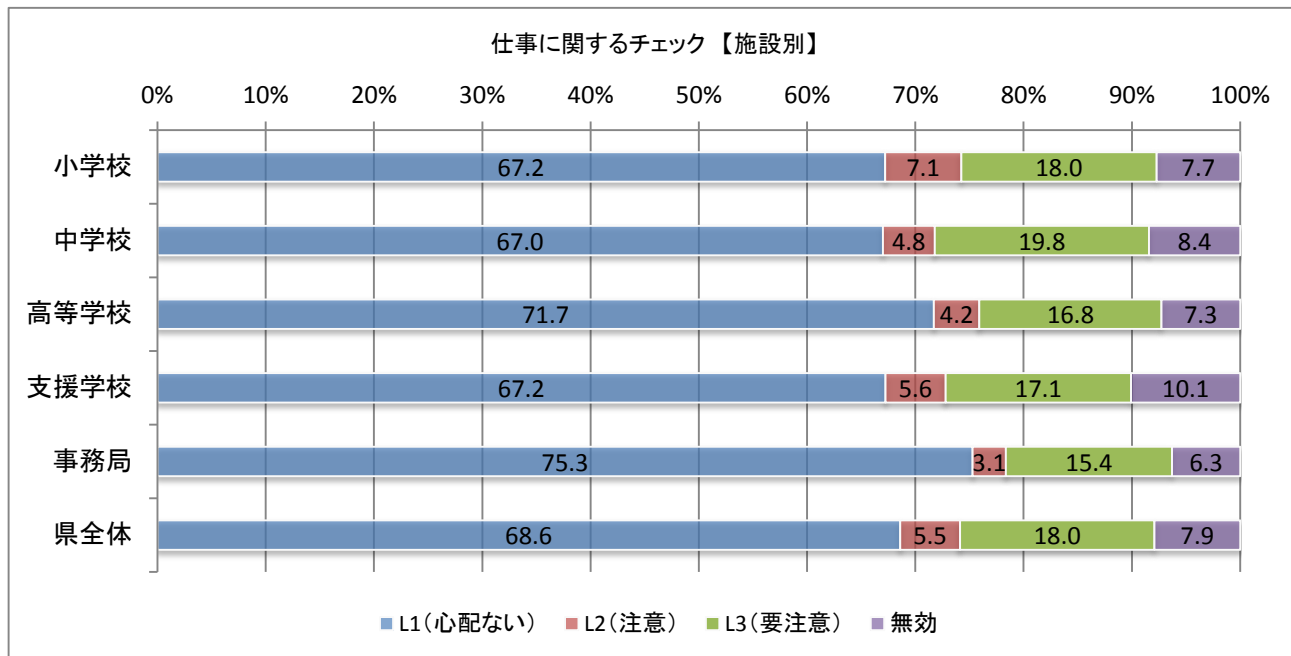
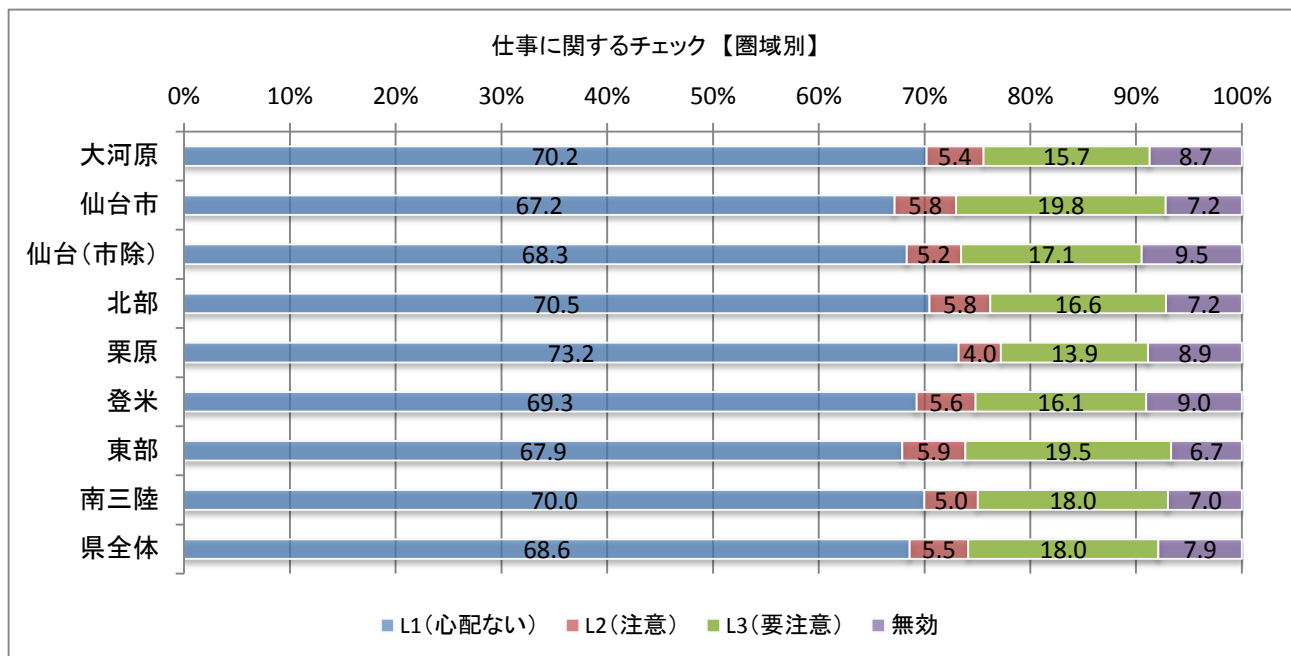


(2) 仕事に関するチェック

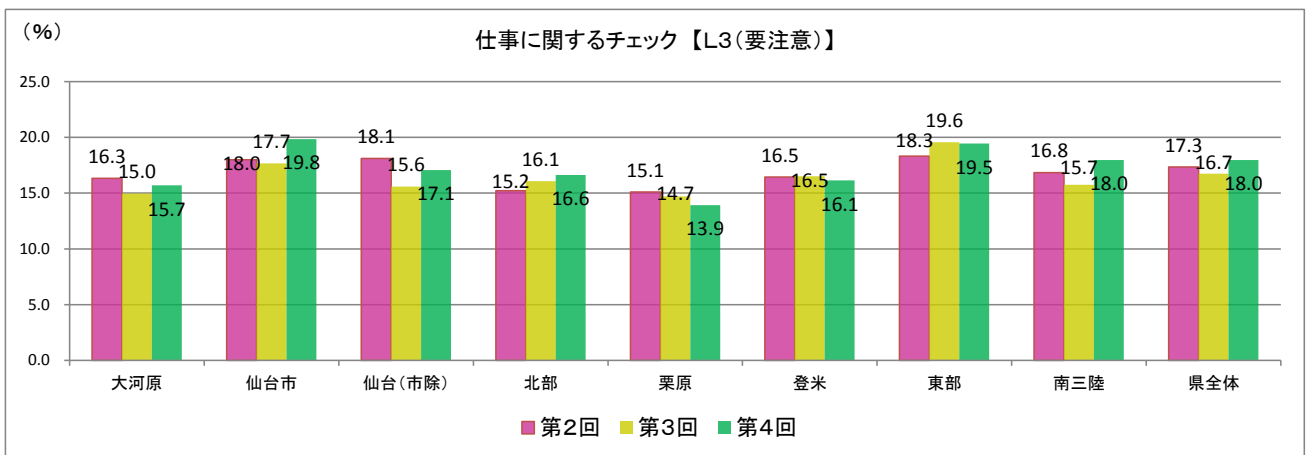
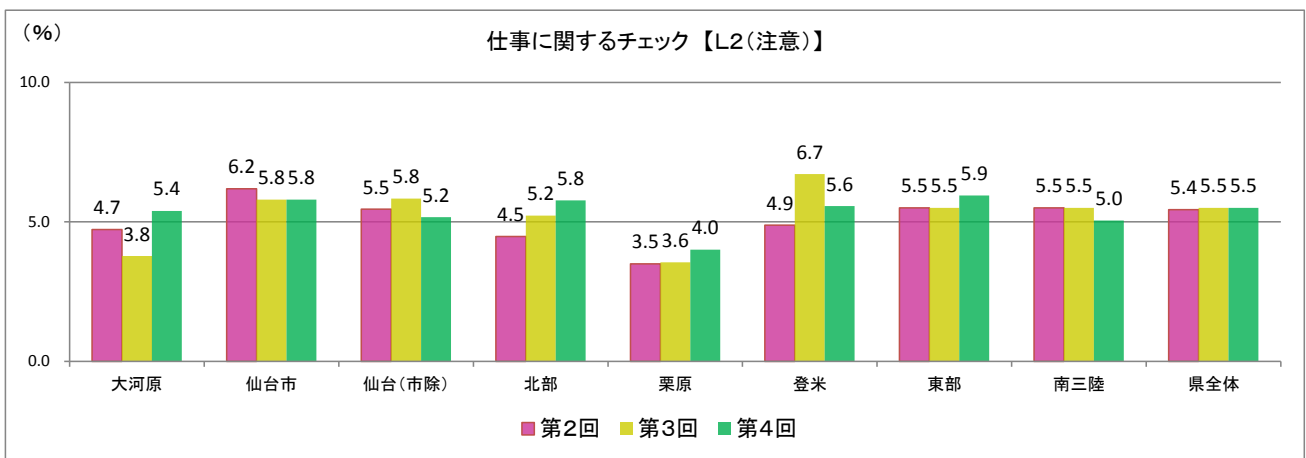
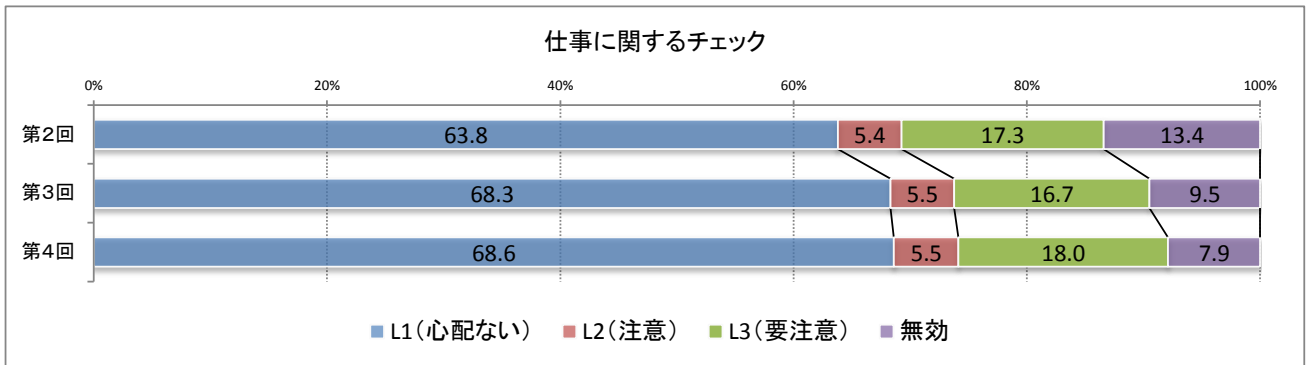
仕事に関するチェック（バーンアウト）は、一定期間を経てから症状が現れたり、進行するとされることから、第2回調査から加えられたものである。

回答者中、心理的な影響があまり心配のないレベル1は、68.6%（10,906人）で、前回の68.3%と比べ横ばいであったのに対し、要注意なレベル3は18.0%（2,856人）で、前回（16.7%）より増加した。

レベル3の割合を施設別に見ると、中学校が19.8%と一番高かった。

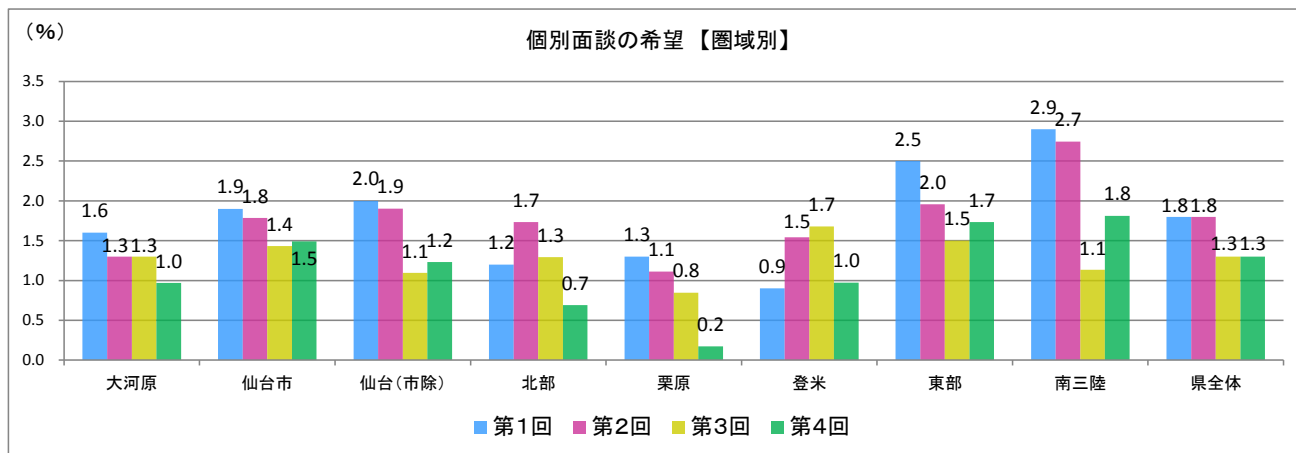


第3回結果と比較すると、レベル1、レベル2ともほぼ変化がないが、レベル3（16.7%→18.0%）の割合が増加した。レベル2、レベル3について圏域別に見ると、レベル2（注意）で大河原圏域（3.8%→5.4%）が大きく増加し、登米圏域（6.7%→5.6%）は減少した。レベル3（要注意）では、仙台市（17.7%→19.8%）、仙台（市除）圏域（15.6%→17.1%）、南三陸圏域（15.7%→18.0%）で増加し、栗原圏域（14.7%→13.9%）は減少した。



■ 個別面談の希望

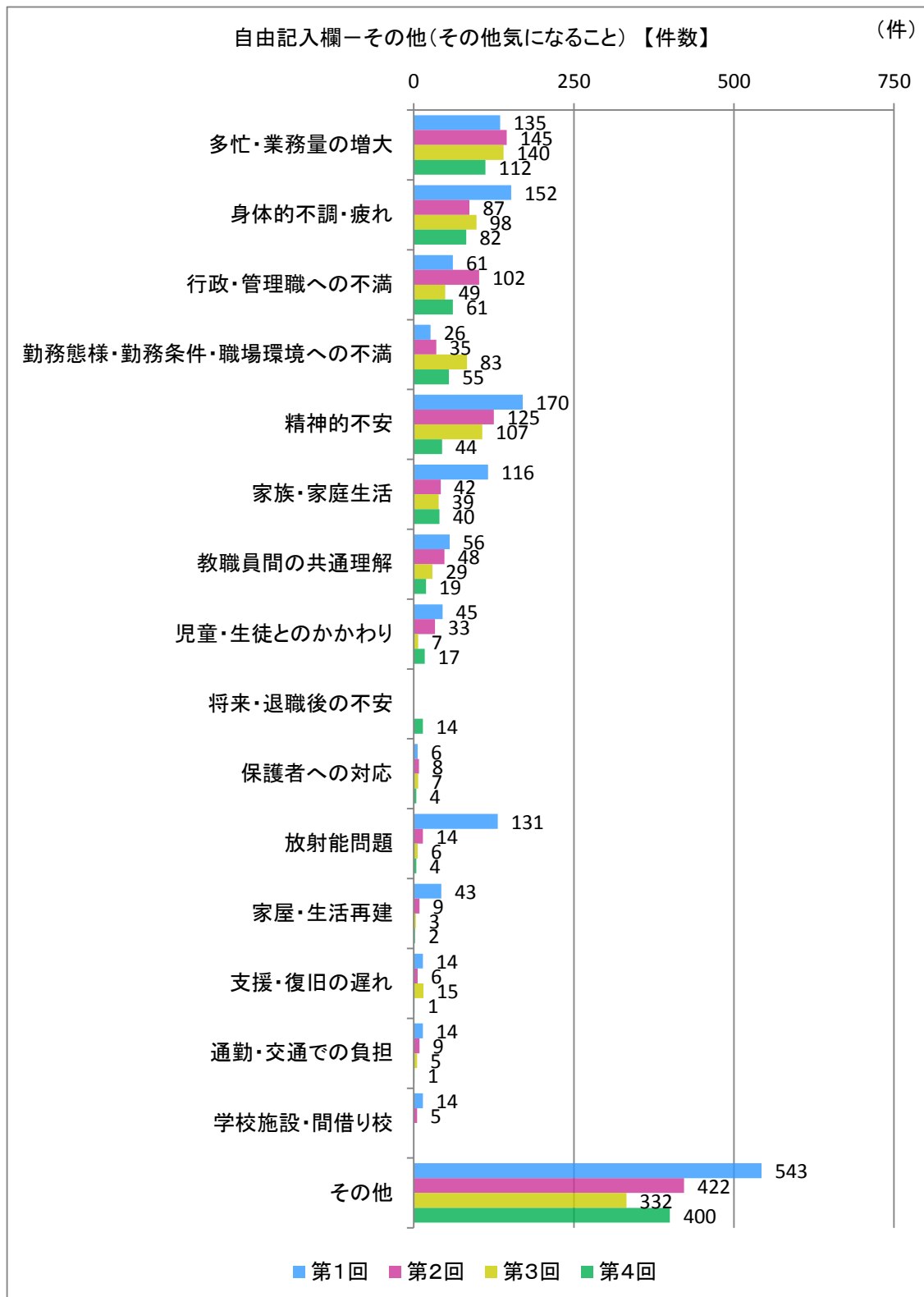
今回の健康調査により個別面談を希望する教職員は、回答者 15,898 人のうち 201 人（1.3%）であった。人数では、仙台市 82 人、仙台（市除）圏域 41 人、東部圏域 28 人、大河原圏域 16 人、南三陸圏域 14 人の順で多かった。



■ 自由記入欄—その他（その他気になること）

(1) 記入件数 856 件

内訳としては「多忙・業務量の増大」112件、「身体的不調・疲れ」82件、「行政・管理職への不満」61件、「勤務態様・勤務条件・職場環境への不満」55件の順で多く、「精神的不安」（107件→44件）が前回より大きく減少した。



前回と比較すると、「行政・管理職への不満」(5.3%→7.1%)、「家族・家庭生活」(4.2%→4.7%)、「児童・生徒とのかかわり」(0.8%→2.0%)の割合が増加し、「多忙・業務量の増大」(15.2%→13.1%)、「身体的不調・疲れ」(10.7%→9.6%)、「勤務態様・勤務条件・職場環境への不満」(9.0%→6.4%)、「精神的不安」(11.6%→5.1%)の割合が減少した。

